

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	増田 昌人		所 属	がんセンター	
職 名			職 名	特命准教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.15	治療学(臨床腫瘍学)の分担当として、前年の講義終了後のアンケート調査結果を基に講義内容や講義用スライド等の講義用資料を改善する。研究成果を講義内容に反映するよう努力する。 FDに参加する。 6年次の指導教官として、学校生活上の問題も含めて、進路指導に当たる。		0.15	独自に学生に対して講義終了後にアンケートを行い(昨年度)、その結果を踏まえて、臨床腫瘍学の講義スライド(学生配布用資料も含む)の22%を入れ替えた。厚労省科研費研究班での、特に①がんに関する情報提供、②がん医療の質の評価、③がん対策の評価の成果を講義に取り入れて学生に説明した。今年も講義終了後に、講義に関するアンケート調査を行い、次年度の講義の改善のためのデータ収集を行った。FDに参加した。担任している学生の進路相談を行った。
研究	0.20	学会での報告発表、学会誌への投稿等を行う。学会評議員等として、学会を通じた研究活動を行う。 外部資金を獲得する。国立がん研究センターがん対策情報センター等との共同研究を継続する。		0.25	Internal Medicine査読、日本臨床腫瘍学会評議員・学会査読・専門医試験査読/評価、日本造血細胞移植学会評議員・ドナーの安全検討研究WG・後期合併症とQOL研究WG、日本がんサポーターケア学会部会調整委員会委員・患者医療職部会委員、日本検査血液学会評議員として学会活動、研究活動に貢献した。 第12回医療の質・安全学会学術集では、医療の質のテーマでシンポジストとして発表した。 外部資金としては、①文科省科研費110万円(代表1件、分担1件)、②厚労省科研費50万円(分担2件)、③沖縄県受託事業費1,800万円(代表2件)を得た。
社会 貢献	0.20	学外の沖縄県等の審議会や委員会等の委員として参画する。 学外の研修会や講演会の企画や講師として参画する。		0.15	厚労省研究班分担任者として、①厚労省第3期がん対策基本計画の中間評価、特に来年度秋に行われる予定の数万人規模のがん患者に対する全国満足度調査を中心となって企画している、②院内がん登録のガイドライン・マニュアルの改訂やその運用方法策定に関わっている。国立がん研究センターがん登録研修専門家パネル委員として、全国で行われている厚労省委託がん主催の研修会のカリキュラム改訂に携わった。同様にごん登録認定試験検討委員会委員として、認定制度の改革と問題作成、評価等に携わった。(特非)日本がん登録協議会外部監査委員会委員として、都道府県がん登録室の安全管理措置に関する外部監査業務を行っている。 沖縄県地域医療構想検討会議委員として地域医療構想に対して、沖縄県がん対策推進計画検討会委員として「第3次沖縄県がん対策推進計画」の策定に重要な役割を担った。
管理 運営	0.25	がんセンター長として、がんセンターの運営を行う。沖縄県統括相談支援センター長として、沖縄県統括相談支援センターの運営を行う。附属病院の各種委員会に参加する。 都道府県がん診療連携病院の新たな指定要件を満たすために、積極的に病院の各部署に働きかけを行う。		0.25	がんセンター長として、がん診療連携病院の指定要件を満たすために、積極的に病院の各部署に働きかけを行い、意欲的に事業等を行った結果、厚労省から高く評価され、がん診療連携拠点病院機能強化事業費について全国427拠点病院中第8位の予算を得た。沖縄県統括相談支援センター長として、沖縄県からの委託事業を積極的に行った。 附属病院の種々の委員会に参加した。
診療	0.20	外来診療を週1回行う。外来化学療法室での診療を行う。 がん診療に関するセカンドオピニオンに対応する。 がん診療に関する地域連携クリティカルパスの作成と改定を行う。		0.20	内科外来診療を週1回行い、他科からの紹介に積極的に対応した。 がん診療に関するセカンドオピニオンを行った。 本年から本格的に使用が始まったがんに対する免疫治療薬に関する多職種チーム(チーム10)を組織し、その委員長として、院内マニュアルを作成し、殆どの診療科が開始したがんに対する免疫療法の安全施行に貢献した。 がん診療に関する地域連携クリティカルパス(胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん、肺がん、前立腺がん)を、取りまとめ役として県内の主要病院の現場の責任者と作成・改定を行い、学内に周知した。
計	1.00			1.00	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		神谷 武志	所 属		整形外科	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.20	系統講義では学生が興味を持って参加できるような講義を行う。ポリクリやクリクラでは実際の臨床に即した内容の実習を行う。		0.10	系統講義では学生が興味を持って参加できるように、写真などを多く用いた講義を行った。ポリクリやクリクラでは実際の臨床に即し、分かりやすい資料等を用いて、どの科に進んでも役立つような内容の実習を意識して実習指導を行った。			
研究	0.20	骨端線を用いた動物実験を行っており、学会発表を予定している。		0.15	骨端線を用いた動物実験を行い、2度(H29.10月;日本整形外科基礎学術集会、H28.12月;日本小児整形外科学会)発表を行った。現在論文を執筆中である。			
社会 貢献	0.20	乳児健診における股関節のスクリーニングの啓発活動や実際の診療に携わっている。		0.15	乳児股関節検診を継続して行った。沖縄県社会福祉審議会委員として年4回の審議会に参加した。九州学校検診協議会運動器部門委員として年1回協議会に参加した。大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会沖縄支部を立ち上げ、事務局代表として業務を行った。			
管理 運営	0.10	クリニカルパス委員会や児童虐待対応委員会への参加を行う。		0.40	リハビリテーション部副部長として、部の運営に関わった。左記委員会や会議に加え、栄養サポートチーム(NST)や臨床研修センタ医科部門員のスタッフミーティング(11月就任)に参加した。			
診療	0.30	整形外科外来(小児整形、痙縮外来)および入院患者の診療を行う。		0.20	外来(小児整形外科、痙縮治療外来、乳児股関節検診二次検診)および入院患者の診療を行った。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		浅見 晴美	所 属		琉球大学医学部附属病院 リハビリテーション部	職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.20	臨床実習の指導、学生講義		0.25	医学部生、保健学科の学生に対し学生講義を行った。リハビリテーション部の実習を選択した医学部生に対しては、臨床実習で直接指導を行った。				
研究	0.20	臨床研究や学会発表、論文投稿		0.10	臨床研究は継続したが、学会発表、投稿論文は行えなかった。				
社会 貢献	0.15	学外の研究会や沖縄県の大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会への参加		0.20	教育研修会、大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会への参加、沖縄県の更生相談所の嘱託医として活動した				
管理 運営	0.05	安全分析担当者会議への参加		0.05	安全分析担当者会議への参加				
診療	0.40	診療及び医療支援		0.40	診療及び医療支援				
計	1.00			1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		新里 朋子	所 属		医学部附属病院 第3内科・リハビリテーション部	職 名		特命助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	心肺運動負荷試験の方法, 評価判定を習得できるよう指導する。学生に心不全講義(心臓リハビリテーション)の講義を行う。臨床実習中に心臓リハビリテーションのミニレクチャーを行い、実際を見学させる。			0.20	学生に心不全講義(心臓リハビリテーション)の講義を行った。臨床実習中に心臓リハビリテーションのミニレクチャーを行い、実際を見学させた。		
研究	0.10	・リハビリテーション部の心臓リハビリテーションに従事するコメディカル の学会発表を指導する。学会にて研究発表を行う。			0.10	・リハビリテーション部の心臓リハビリテーションに従事するコメディカル の学会発表を指導した。		
社会 貢献	0.20	・心臓リハビリテーションにより, 循環器疾患患者のADL/QOLの改 善・維持向上および再発予防に取り組む。 ・動脈硬化疾患に関する市民公開講座等(啓蒙活動)に助力する。			0.20	・心臓リハビリテーションにより, 循環器疾患患者のADL/QOLの改善・維持 向上および再発予防に取り組んだ。		
管 理 運 営	0.20	・心臓リハビリテーション部門の多職種連携を推進する。			0.20	・心臓リハビリテーション部門の多職種連携を推進した。		
診 療	0.30	・循環器患者に心臓リハビリテーションを行い, 患者のQOL/ADLの改 善に取り組む。			0.30	・循環器患者に心臓リハビリテーションを行い, 患者のQOL/ADLの改善に 取り組んだ。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)								
名 前		廣瀬 康行	所 属		医学部 附属病院 医療情報部	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.00	・学生指導の担当割当はないので該当しない		0.00	・学生指導の担当割当はないので該当しなかった			
研究	0.34	・他の研究機関等との委託共同研究等を実施する(厚労省および経産省) ・学会等での報告発表に応募するか、もしくは講演等を請け負う		0.34	・他の研究機関等との委託共同研究等を実施した(AMED経由厚労省管轄受託研究、ならびにJLOM経由の三菱総研経由の経産省、これら二つを実施した) ・学会等での報告発表に関わる講演を請け負った(JSOM:日本東洋医学会)			
社会 貢献	0.65	・ISO(国際標準機構)TC215 に参画し本邦の国益および世界に貢献する ・ISO(国際標準機構)TC249 に参画し本邦の国益および世界に貢献する ・学外の教育機関において情報リテラシー等の基礎を教授する ・学会での委員会活動を実施する		0.65	・ISO(国際標準機構)TC215 に参画して本邦の国益および世界に貢献した(香港会議など) ・ISO(国際標準機構)TC249 に参画し本邦の国益および世界に貢献した(リバプール会議など) ・学外の教育機関において情報リテラシー等の基礎を教授した(沖縄歯科衛生士学校) ・学会での委員会活動を実施する			
管理 運営	0.01	・RAINSの管理運営に関わる(総合情報処理センターの委員として)		0.01	・RAINSの管理運営に参画した(総合情報処理センターの委員として)			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		山本 俊成	所 属		医学部附属病院医療情報部
			職 名		講師
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報セキュリティ研修会を開催する</li> <li>ビッグデータ処理の方法を教える</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>2017年12月12日に情報セキュリティ研修会を開催し、1演題を担当した。</li> <li>電子カルテのネットワーク内、Excelの活用およびDWHとの連携方法を他部署の教えた。</li> </ul>
研究	0.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機関内・医療機関間におけるデータ利活用の技術的な方法論を開発する</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>おきなわ津梁ネットワークに参加するため、データ・画像送信および閲覧のネットワーク構成および仕組みを提案した。</li> <li>電子カルテ内のDWH等のデータをあえてExcelで統合する試みを行っている。</li> <li>国際医療通訳関係の用語コード体系の多言語間対応による通訳支援のデータ作りを試みた。</li> </ul>
社会 貢献	0.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域医療連携推進の活動に参画する</li> <li>医療情報学会九州沖縄支部会の幹事を務める</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>おきなわ津梁ネットワークの活動、地域連携パスの活動へ参加した</li> <li>医療情報学会九州沖縄支部会の幹事に積極的に参加し、2018年6月に沖縄大会を担当した。</li> </ul>
管理 運営	0.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合情報処理センターと連携しながら院内RAINSを維持運営する</li> <li>病院ポータルサイトの管理運営</li> <li>病院サーバの脆弱性検査を実施する</li> <li>他部門のネットワーク環境の構築についてアドバイスする</li> <li>経営企画室の室長補佐の責務を果たす</li> <li>感染対策室室員の責務を果たす</li> <li>感染対策実務者会議に参加する</li> <li>リスクマネジャー会議に参加する</li> <li>病院経営改善に係わるデータ分析を支援する</li> <li>各種委員会に参加する</li> <li>大学本部IT戦略室メンバーの責務を果たす</li> <li>各種学外会議に参加する</li> </ul>		0.60	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合情報処理センターと連携しながら院内RAINSを維持運営し、老朽化対策の大量機材を提供して貰った。</li> <li>病院ポータルサイトを管理運営し、台風等による停電の影響を最小限にする仕組みを構築した。</li> <li>病院サーバの脆弱性検査を定期的に自動実施できる仕組みを構築した。</li> <li>他部門の業務用機器のネットワーク環境の構築についてアドバイスした。</li> <li>経営企画室の室長補佐として定期的に会議に参加した。</li> <li>感染対策室室員としてICT会議に参加した。</li> <li>感染対策実務者会議に参加した。</li> <li>リスクマネジャー会議に参加した。</li> <li>病院経営改善に係わるデータ分析を支援し、病院指標公開ワークグループのリーダを努めた。</li> <li>各種委員会に参加した。</li> <li>大学本部IT戦略室メンバーとして、関連委員会に参加した。</li> <li>年3回医療情報部長会議と国立大学国際化PT関連会議に参加した。</li> </ul>
計	0.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		仲松 正司	所 属	医学部 附属病院 感染対策室	職 名	特命助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	学生や研修医への講義、職員への研修会を引き続き行う。		0.30	病院実習の学生に対する2時間の講義、病院実習前の学生に対する講習会、職員に対する講習会を行った。	
研究	0.00			0.00		
社会 貢献	0.30	地域連携加算を通して2病院の感染対策支援を行う 渡航者やその他希望者へのワクチン接種事業を継続して行う。 沖縄県での耐性菌ネットワーク体制構築に向けて県や保健所と連携して活動を行う。		0.20	渡航者やその他希望者へのワクチン接種事業を継続して行った。 沖縄県での耐性菌ネットワーク体制構築に向けて県や保健所と連携して活動を開始している。	
管理 運営	0.00			0.00		
診療	0.40	感染症症例の相談を引き続き担当する。 血液培養陽性例を中心に診療支援を継続する 周術期抗菌薬マニュアルの改定や外来での抗菌薬処方への把握、適正化を行う。		0.50	感染症症例や血液培養陽性症例を中心に感染症診療に従事している。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		江夏亮	所 属		医学部附属病院	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.20	眼科外来、眼科病棟、眼科医局にて眼科医師、臨床医師として学生、後進に指導、教育する。		0.20	眼科外来、眼科病棟、眼科医局にて眼科医師、臨床医師として学生、後進に指導、教育する。			
研究	0.20	眼科臨床研修、眼科発表を行う。		0.10	眼科臨床研修、眼科発表を行う。			
社会 貢献	0.20	講演会、地方会の準備をする。		0.10	講演会、地方会の準備をする。			
管理 運営	0.10	病棟会議、手術場の環境整備、物品管理を行う。		0.30	病棟会議、手術場の環境整備、物品管理を行う。			
診療	0.30	眼科外来、入院診療および眼科手術執刀に従事する。		0.30	眼科外来、入院診療および眼科手術執刀に従事する。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		



(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		力石洋平	所 属	眼科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.10	日常の眼科診療、処置、手術などを示すことで眼科診療に対する理解を深める。		0.10	1年生や5・6年生に示すことができた。	
研究	0.20	国内外の学会・勉強会などで新しい知識を得、日々の診療に還元する。		0.20	国内・国外の学会に参加し、新たな知見を得た	
社会 貢献	0.20	開業医との連携を深め、1人でも多くの患者を失明から守る		0.20	十分な連携ができた	
管理 運営	0.20	薬事委員会、交通対策委員、システム推進委員		0.20	薬事委員会、交通対策委員、システム推進委員	
診療	0.30	患者一人一人のニーズに合った最善・最適な医療を提供する。また、待ち時間の軽減に努める		0.30	まだ、待ち時間の軽減は引き続き努力が必要	
計	1.00			0.70		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		目取眞 興道	所 属	医学部付属病院	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.10	学生講義、学生臨床実習を行う。学生講義は主に網膜硝子体疾患に関わる臨床的なテーマとする。臨床実習では、患者の問診や、診察の基本の指導、手術の取り組みかたを指導する。		0.10	学生への講義、臨床実習を行えた。網膜疾患、未熟児網膜症、硝子体手術の講義をおこなった。診察の基本、手術のとりくみかたなど指導できた。学生に眼科の魅力を伝え、眼科に興味を持ってもらえるよう指導した。	
研究	0.10	硝子体手術領域について、新しい手術手技や、器具の臨床応用に関する項目について。後輩の発表指導。		0.10	新しい手術手技や、器具の臨床応用に関して検討した。後進の発表を指導した。	
社会貢献	0.10	地域講演会の準備を行う。		0.10	地域講演会の準備を行った。	
管理運営	0.40	眼科医局の運営をおこなう。医局長業務。手術場の整備。眼科物品の管理、購入手続き。他病院(眼科)との連携管理。医局員の労務内容関連、シフト内容。		0.40	左の通り、医局の運営、医局長業務をおこなった。手術場、眼科物品の購入、運営管理をおこなった。	
診療	0.30	眼科の診療を行う。特に硝子体手術の執刀。後進への指導。		0.30	眼科診療、眼科手術をおこなった。白内障手術、硝子体手術。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		中島重良	所 属		医学部附属病院救急部
			職 名		特命准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	<p>初期研修医および学生に対して、脳卒中、外傷などについて、標準化された診療手順を指導する。 看護師(および希望する研修医)を対象として、災害医療についての勉強会などを企画する。 公衆衛生チュータとして、学生の研究について、具体的な指導を行う。</p>		0.30	<p>外傷診療について 研修医に対しては共通研修シミュレーションスキルと言う形で指導を行うことができた。 学生に対しては講義と言う形でを行うことができた。 災害医療について 本学災害訓練の前に看護師に対し災害医療概論、トリアージ法の指導を行うことができた。 公衆衛生学のチュータとして学生に指導することができた。</p>
研究	0.05	<p>救急医療および災害医療について、沖縄県における特性について研究する。</p>		0.10	<p>沖縄県総合防災訓練等に参加することにより、沖縄県の災害医療を体験することができた。</p>
社会貢献	0.15	<p>地域の消防機関との密接な関係＝顔の見える関係の構築に努める。この目標に際し。地域で開催されるJPTECコース(病院前外傷救護)、MCLSコース(多数傷病者への対応標準化トレーニングコース)などへの積極的な参加を図る。</p>		0.20	<p>沖縄県のJPTECコースに2回、MCLSコースに1回参加し指導する機会が得られた。 なお3月のJPTECコースではコース担当責任医師を務める予定である。</p>
管理運営	0.05	<p>DMAT隊員として、琉球大学医学部附属病院DAMTが、災害発生時に、実働的な舞台として活動できるよう、質の維持向上に努める。</p>		0.20	<p>内閣府総合防災訓練(大阪府他)に参加し琉球大学医学部附属病院DAMTとして活動を行うことができた。</p>
診療	0.65	<p>救急患者の診療に従事し、救急部専従の脳神経外科医として、特に脳卒中診療、頭部外傷を含む外傷診療全般の質の向上に努める。</p>		0.20	<p>脳卒中の診療にあたることはできたが、予想していたよりかなり症例数が少なかった。</p>
計	1.00			1.00	
<p>※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。</p>				<p><input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。      <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。</p>	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		平良 隆行	所 属		医学部 救命救急医学講座	職 名		特命講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.50	救急科、麻酔科にローターとしてきた学生に対して、急性期医療および麻酔業務について指導する。			0.80	学生および研修医に対して、急性期医療および麻酔管理について指導し、貢献できた。		
研究	0.30	救急医学会、および集中治療医学会に学会発表し、救急医学会およびamerican jornal of emergency medicineに投稿、採択を目標とする。			0.10	今年度において、麻酔科学会及び救急医学会、病院前救急医学会、集中治療学会で発表を行った。論文は4本作製し、現在論文投稿中である。		
社会 貢献	0.10	MC作業部会等に参加し、地域救急医療の構築に寄与する。			0.05	MC作業部会に参加できなかったが、地域医療に貢献できた。		
管理 運営	0.10	高度救命センター化に向け、救急センターの動線の検討を行う。			0.05	動線の点検については、適宜教授との相談は行っている。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		玉城佑一郎	所 属		医学部・医学研究科
			職 名		特命講師
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.30	学内救急医療講義で救急医療の教育をする。On the jobを基本に救急診療やプレゼンテーション力を養う。初期臨床研修医への救急診療教育や医療安全教育を行う。 医学科学生の部活や医療ボランティア活動に携わり指導に努める。初期臨床研修医と診療を一緒に行いながら救急診療の重要性を教え指導し、将来この分野を専門とする医師または救急医療に関わる医師の育成に努める。		0.30	無理なく出来たと思う。救急医師の辞職が多数出た割には仕事の分担が出来、左記内容をする事ができた。
研究	0.08	診療した症例を学会発表や論文報告をしていくようにする。		0.00	やはり救急医師が数名辞職してしまった事は大きく現場活動に影響を及ぼし、現場を守る事が精一杯で左記目標は達成出来ず。むしろ無理に近い状態であった。平成30年からはさらに医局員の数が増えるため積極的に報告していく予定です。
社会 貢献	0.10	アメリカ心臓協会による心肺蘇生講習のトレーニングサイトに関わったり、各スポーツイベントの医療に携わったりしながら医療従事者や市民に対し救急医療を生かしていく。消防職員と共に災害訓練を行っていく。		0.10	今年からBLS内容も新しくなり、左記目標以外にも医学部生への教育でBLSの変更点を含め知識の更新を図りました。各スポーツイベントは日程調整が合えば、参加するようにしていたので、この目標はいつもの通り達成できました。
管理 運営	0.22	診療報酬も変わった事や救急応援医師数も増加した為、昨年と比較し救急外来での対策を考察し、医局会で問題点を挙げながら管理運営に関わっていく。中期計画も立てたため、それに沿った実績を上げていく。		0.05	今年は救急医師が数名辞職したため医局会を開くほど余裕がなく、医局員同士の話し合いさえも出来ないほどの激務であった。応援医師も期待していた程の増員はなく、管理運営はむしろ危機管理に変わっており、いかにこの少数で医療事故を起こさずにやっていけるのかを維持する事で精一杯でした。
診療	0.30	救急車患者受診数を増やし病院収益に貢献していく、院内における救急システム構築作成に関わっていく。		0.00	救急受診者数を増やす余裕はなく、増やす努力さえも出来ず。現場で医療事故を起こさないようにいけるか？査定される額をいかに抑えられるか？つまり、どうやればマイナスダメージを最小限に抑える事が出来るのかのみに力を注ぐしかなかった。
計	1.00			0.45	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		富加見 昌隆	所 属		医学部付属病院救急部	職 名		特命助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.20	ポリクリ学生を対象に、救急外来でベッドサイド教育を行う。 ミニレクチャーの開催		0.05	ポリクリ学生、研修医を対象に救急外来でベッドサイド教育を実施した。 ミニレクチャーまでは手が回らなかった。			
研究	0.20	救急外来における敗血症の調査、研究		0.05	データ収集のみ			
社会 貢献	0.10	BLS, ACLSの講習会への指導補助の参加		0.00	勤務との調整がつかず、参加できなかった。			
管理 運営	0.10	病院の委員会(2), 研修医チューターの活動		0.20	委員会のへの参加, 報告書の提出を行った。			
診療	0.40	救急外来, 救急病棟の業務		0.70	救急外来・病棟業務をおこなった。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		小宮一郎	所 属		医学部附属病院 シミュレーションセンター
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.40	①初期臨床研修センター員として初期臨床研修医の臨床研修の資質向上に貢献する。特に地域医療実習において、地域医療部と共同でこれの企画運営を行う。シミュレーションを用いて卒前・卒後の医学教育を行う。②離島・僻地臨床実習臨床に関わり、学生指導を行う。特にクリニカルクラークシップの向上を図る。③医学科の総合試験問題の作成に関与し、試験問題のブラッシュアップにも参加する。④院内の内科専門研修の運営に関わる。⑤希望者が居れば既卒の国試浪人を対象とした個人指導を行う。		0.40	①初期臨床研修センター員として初期臨床研修医の臨床研修の資質向上に貢献できた。地域医療実習には関与できなかったが、研修医OSCEに参加してシミュレーションを用いた卒後の医学教育を行った。さらに月に2回開催される研修医臨床ケースカンファランスに参加し、指導医としてのアドバイスをを行った。②離島・僻地臨床実習臨床には直接関われなかったが、実習発表会に参加し指導することができた。③医学科の総合試験問題の作成に関与し、ⅠからⅢまでのすべての総合試験問題のブラッシュアップに参加し、適切な問題を作成した。④院内の内科専門研修の運営に関わった。⑤既卒者を対象とした個人指導は行えなかった。
研究	0.25	①沖縄県の地域医療の在り方を研究する。院内の在宅介護センターの運営に関わる。②新たな卒後医学教育の在り方を研究し、その結果を医学教育学会等で報告する。③糖尿病の診療を通じて、沖縄の糖尿病患者の予後改善を目指した臨床研究を行う。④脂質代謝異常と癌の疫学的研究を行い、癌の早期発見に関連する研究を行う。⑤尿酸排泄と糖尿病との関連性を研究し、後輩を指導する。		0.35	①沖縄県の地域医療の在り方を研究した。院内の在宅介護センターの運営に多少とも関わることができた。②新たな卒後医学教育の在り方を研究し、その結果を札幌で開催された平成29年医学教育学会で報告した(共同研究)。③糖尿病の診療を通じて、沖縄の糖尿病患者の予後改善を目指した臨床研究を行った。④脂質代謝異常と血液悪性疾患の疫学的研究を行い、血液悪性疾患の早期発見に関連する研究成果を国際的な医学雑誌に投稿した。⑤尿酸と糖尿病との関連性を研究し、後輩医師を指導すると同時に海外の医学雑誌に投稿した。
社会貢献	0.20	①沖縄県の地域医療に関する事業に参画する。②県内の市町村の健康教室や企業健康教室の講師を務め、県民の健康増進に貢献する。③上記の臨床研究を通じて沖縄の健康増進に取り組む。		0.15	①沖縄県の地域医療に関する事業には参画できなかった。②県内の市町村の健康教室には参画できなかったので、県民の健康増進企画に直接貢献する機会はなかった。③臨床研究や日常診療を通じて沖縄の健康増進に取り組むことができた、医師の不足している久米島の医療にかかわることができた。④看護師の特定行為に関する資料の作成を依頼され、平成29年度から開始した。
管理運営	0.15	①初期臨床研修センター員、在宅医療推進センター員、専門研修センター員として活動に積極的に参加し、初期研修医・専門研修医の資質向上に関与する。		0.10	①初期臨床研修センター員、在宅医療推進センター員、専門研修センター員として活動に積極的に参加し、初期研修医・専門研修医の資質向上に関与できた。②センター長の不在の際に国内外のシミュレーションセンター訪問者などへの対応を頻回に行った。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	古波蔵 健太郎		所 属	附属病院血液浄化療法	
職 名			准教授		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.20	腎疾患の授業内容をブラッシュアップする。PBLに沿った視点を各講義にとりいれ実践的な内容にしていく。学生、研修医教育スキルの向上、医員に対する専門医教育の充実(系統だったカリキュラムの整備、教育手法の確立)と臨床研究指導、大学院生の研究指導を行う	0.20	シラバスにある講義内容の相互関連が把握できるように全体像が見える化した。授業で使用する資料の見直し、医員に対する専門医教育のための資料作成、ミニレクチャー、最新の情報提供などを行った。PBLの視点を授業により多く取り得れた。SDMの実践に関する総合講義を行った。大学院生の論文作成のサポートや臨床研究のテーマを決めて開始することができた。学会や県内外の講演会を通じて専門領域の教育を行った。修士課程の学生に講義、各テーマに関してアドバイスした。	
研究	0.30	慢性腎臓病、心血管病、メタボリック症候群の相互関連に関して高尿酸血症、C3、細動脈炎症とCKD、高血圧の相互作用に着目した臨床研究、RAの心血管病、腎障害進展因子に関する臨床研究、尿酸降下薬を用いた前向き研究、AMEDに関連したIgA腎症の研究、腎硬化症の共同研究などを進める。その他、臨床研究の論文投稿を進めていく。当施設ならびに関連施設の症例を登録してコホートスタディを開始する。	0.30	尿酸関連、腎内細動脈関連、慢性腎臓病と炎症の相互関連、高血圧性腎障害に関して学会、論文発表などを行った。AMEDに関連したIgA腎症の研究、腎硬化症の共同研究などを進めた。尿酸降下薬の前向き介入研究を継続している。新たにSGLT2阻害薬に関する研究を開始した。	
社会貢献	0.10	CKD、痛風、高血圧の3つの診療ガイドライン作成を行う。様々な講演会を通じて啓発活動を行う。南城市のCKD対策事業を継続し透析患者抑制を目指す。沖縄県の糖尿病性腎症重症化予防事業を推進する。	0.10	各ガイドラインの作成に参加した。県内外で講演会を通して啓発活動を行った。沖縄県イノベーション事業に採択されタブレット端末を用いたCKD重症化予防プログラムの研究開発を開始した。南城市でのCKD対策事業を継続している。沖縄県の保健事業評価、糖尿病性腎症重症化予防事業の委員を務め沖縄県の保健医療事業のサポートを行った。沖縄県の保健事業評価委員を勤めた。	
管理運営	0.20	血液浄化療法部スタッフならびに第三内科腎グループの医員を統括し、個々の特徴に目を向けた個別目標とグループ全体としての臨床および研究の目標設定およびその達成に向けて努力する。ワークライフバランスに配慮した組織運営を目指す。血液浄化療法部において中央診療部としての安全性、サービス向上を目指した管理運営を進める。	0.20	血液浄化療法部スタッフならびに第三内科腎グループの医員を統括し、個々の特徴に目を向けた個別目標とグループ全体としての臨床および研究の目標設定およびその達成に向けた支援を継続した。海外留学希望者のサポートを行った。ワークライフバランスに配慮した組織運営を実践した。血液浄化療法部において中央診療部としての安全性、サービス向上を目指して、チームによる定例ミーティングを継続した。ベッド管理を収入とスタッフの仕事量などを考慮して行った。	
診療	0.20	腎Gをサブグループに分けて効果的かつ効率よく診療できる体制を整える。個々の患者の病態に基づいて個別化医療をチームで取り組む。包括的な腎代替療法を提供できるような体制を強化していく。	0.20	腎Gをサブグループに分けて効果的かつ効率よく診療できる体制を発展させた。これまでに培ったグループのノウハウを共有化することで診療の標準化、効率化を図る取り組みを継続した。	
計	1.00		1.00		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。



(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		恒吉 章治		所 属	医学部医学科 血液浄化療法部	職 名	特命助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.15	ポリクリでの「腎代替療法レクチャー」		0.10	・できるだけ学生に興味を持ってもらえるよう、講義に実際の治療風景の見学も交えて指導できた。		
研究	0.15	・テルモ株式会社との共同研究「腹膜透析チューブの接合不良予防の検討」 ・「腹膜炎起炎菌の薬剤耐性状況と、適切な抗生剤選択」		0.15	・「腹膜透析チューブの接合不良予防の検討」を医工学雑誌に投稿し、査読中である。 ・「腹膜炎起炎菌の薬剤耐性状況と、適切な抗生剤選択」を、日本腹膜透析医学会総会において、ワークショップで講演した。		
社会貢献	0.15	・地域における腎代替療法の適正化:地域施設との連携		0.15	・地域における腎代替療法の適正化にむけて、腹膜透析の病診連携(離島を含む)と、地域にむけた講演会を行った。		
管理運営	0.15	・在宅医療推進センター委員 ・リスクマネージャー ・PD(腹膜透析)チームリーダー:病棟・外来、栄養部、薬剤部でのスムーズな連携		0.20	・在宅医療推進センター委員として会議を行った。 ・リスクマネージャーとして部署内の周知を行った。 ・PDチームリーダーとして、月1回のカンファレンスを開催し、システム(マニュアル)作成を進めるとともに、患者情報の共有を図った。また、チームメンバー5-6人に学会発表を指導した。		
診療	0.40	・腎代替療法選択外来 ・腹膜透析外来:血液浄化療法部医師の新規参入、病棟医師との連携 ・血液透析管理		0.40	・腎代替療法選択外来で、計40人以上の療法選択を行い、PD選択率 40%とした。 ・腹膜透析外来をマネジメントし、30人の維持患者の診療、他科との連携をおこなった。 ・血液透析の管理を行った。		
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城 興次郎	所 属		医学部医学科	職 名		特命助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.10	腎代替療法の選択や適応、急性血液浄化療法の仕組みや適応ならびに慢性疾患特有の患者医師関係についても理解を深めてられるような教育を提案したい。			0.10	研修医への左記指導に関しては十分に行えた。今年は学生と接する機会がなかったので、次年度は学生教育にも積極的に関わっていきたい。		
研究	0.25	血液透析患者の栄養及び循環動態について			0.10	学会発表は2回行ったが、臨床業務の増加ため論文作成や研究の時間がとれず反省すべき点が多い。		
社会貢献	0.10	沖縄県内の血液透析施設との連携			0.10	診療応援による貢献は十分にできた。各種研究会を通して今後の沖縄県の透析医療の在り方や大学病院の役割について検討できた。		
管理運営	0.05	DPC委員会委員 感染対策委員会委員			0.05	各委員会にはほぼ病院経営状況や感染対策について現場にフィードバックを行った。		
診療	0.50	血液透析患者管理 腹膜透析患者管理 腎代替療法選択外来			0.65	血液透析だけでなく腹膜透析外来も開始し診療が充実した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		外間 昭	所 属	附属病院 光学医療診療部	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.10	系統講義, 病棟回診補佐, 研修医への診療指導, 内視鏡担当医への技術指導を行う。		0.10	系統講義, 病棟回診補佐, 研修医への診療指導, 内視鏡担当医への技術指導を行った。	
研究	0.25	英文原著 1報, 英文症例報告・短報 3報の採択及び科研費の採択を目指す。		0.20	英文原著 1報の責任著者を務めた。邦文依頼原稿4報を記載した。	
社会 貢献	0.05	第104回日本消化器内視鏡学会九州支部例会を11月に那覇市で開催し, 例会長を務める。欧米学会雑誌から依頼される論文の査読を行う。		0.10	第104回日本消化器内視鏡学会九州支部例会長を務めて, 成功裡に開催した。 欧米学会雑誌から依頼される約20編の論文査読を行った。	
管理 運営	0.10	大学院生の指導を行い, 年度内の学位論文の採択と学位取得を目指す。		0.15	光学医療診療部の運営, 人事と改装を遂行した。 大学院生の指導を行い, 年度内に2名の学位取得が見込まれている。	
診療	0.50	外来診療(週1日), 内視鏡検査(週3日)と入院患者回診を継続する。		0.45	外来診療(週1日), 内視鏡検査(週3日)と入院患者回診を継続した。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	金城 徹		所 属	琉球大学医学部附属病院 光学医療診療部		職 名	助教		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.25	医学部学生への臨床講義を2コマを担当する。医学科実習生や研修医には消化器病学の一般臨床を中心に教育し、当医局に入局した後期研修医や消化器病・消化器内視鏡専門医をめざす医師に対しては消化器病学以外に内視鏡の知識や技術を含め全般的に指導を行う。また、前記対象者(実習生以外)に消化器病関連学会における発表の指導を行う。		0.25	医学部学生への臨床講義を2コマを担当した。医学科実習生や研修医には消化器病学の一般臨床を中心に教育し、当医局に入局した後期研修医や消化器病・消化器内視鏡専門医をめざす医師に対しては消化器病学以外に内視鏡の知識や技術を含め全般的に指導を行った。また、前記対象者(実習生以外)に消化器病関連学会における発表の指導を行った。				
研究	0.25	難病に該当する炎症性腸疾患患者が多く通院する当院において、沖縄県における炎症性腸疾患の疫学的背景や臨床所見(消化器内視鏡所見)、治療薬剤の血中濃度を測定することで、患者ごとの適切な治療マネジメントを探求する。		0.25	難病に該当する炎症性腸疾患患者が多く通院する当院において、沖縄県における炎症性腸疾患の疫学的背景や臨床所見(消化器内視鏡所見)、治療薬剤の血中濃度を測定し、データを集めている。また、現在、沖縄県の炎症性腸疾患の疫学データを取りまとめることとなっている。				
社会 貢献	0.10	班会議における臨床研究に積極的に参加し、臨床消化器病における概念や治療方針決定などに貢献できるようにする。		0.10	7月の炎症性腸疾患の班会議に参加し、12月には那覇市保健所主催の患者会で炎症性腸疾患の講演を行った。また、3月には日本消化器内視鏡学会承認の消化器内視鏡ハンズオンセミナーを沖縄県内の消化器内科医を対象に行った。				
管理 運営	0.10	日々の内視鏡業務が円滑に行えるように、検査前日や当日に担当医師や看護師と密に連携し、内視鏡業務運営を行っている。また、月1回の光学医療診療部小委員会を開催し、参加している。		0.10	日々の内視鏡業務が円滑に行えるように、検査前日や当日に担当医師や看護師と密に連携し、内視鏡業務運営を行っている。また、月1回の光学医療診療部小委員会を開催し、参加している。				
診療	0.30	外来業務を週1コマを周年で行っている。特に炎症性腸疾患の治療(生物学的製剤の導入など)や早期消化器癌の内視鏡治療(早期食道癌・胃癌・大腸癌の内視鏡的粘膜下層剥離術)を中心に診療を行っている。内視鏡治療は年間20例以上を目標としている。		0.30	外来では炎症性腸疾患の治療(生物学的製剤の導入など)や早期消化器癌の内視鏡治療(早期食道癌・胃癌・大腸癌の内視鏡的粘膜下層剥離術)を中心に診療を行った。内視鏡治療は年間30件ほど行い、外科共同の内視鏡治療も積極的に行った。				
計	1.00			1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		合志 清隆		所 属		医学部附属病院 高気圧治療部		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.10	高気圧医学の教育(学生:講義教育と臨床教育、医師:臨床教育)				0.10	概ね達成できた				
研究	0.10	フィールド調査(沖縄県の職業性ダイバーにおける減圧障害の実態と勤務状態を調べる)				0.10	概ね達成できた				
社会 貢献	0.10	潜水ないし潜函作業への協力(沖縄県の潜水作業と潜函作業において、大臣審査に必要とされる有識者による作業者の指導、事故時の救急対処、その後の安全教育の実施)				0.10	概ね達成できた				
管理 運営	0.10	事故防止で職員教育(専門学会の安全対策で決められている高気圧酸素の関する事故防止を毎日実施。院内マニュアルの職員周知)				0.10	概ね達成できた				
進路 指導	0.10	適正な指導(学生の履修状況の確認、学生が不安に感ずる事項への対処)				0.10	概ね達成できた				
診療	0.50	診療件数と重症度から国内施設のトップを維持しているが、更なる適正で利便性の高い運用を目指したい。				0.50	概ね達成できた				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		前原 博樹	所 属		医学部附属病院	職 名		特命講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.15	医学生に対する骨軟部腫瘍領域の講義 授業の見直し(学生の意見を取りいれながら) 3年次学生の指導教官として学生支援を行う		0.10	医学生に対する骨軟部腫瘍領域の講義 授業の見直し(学生の意見を取りいれながら) 3年次学生の指導教官として 学生支援を行う, 2017年11月より高気圧治療部特命准教授となり、指導教 官交代となった。			
研究	0.15	学会での報告発表、外部資金の獲得、他大学との共同研究、他施設 共同研究		0.10	学会での報告発表、他施設共同研究			
社会 貢献	0.05	啓蒙活動(医療従事者)、教育講演(一般)		0.10	啓蒙活動(医療従事者、新聞掲載)			
管 理 運 営	0.10	骨軟部腫瘍ミーティングの開催(病理医、放射線科医), 骨転移がんセンターボードの開催(当院第二外科、泌尿器科、放射線 科を中心、他施設)		0.10	骨軟部腫瘍ミーティングの開催(病理医、放射線科医), 骨転移がんセ ンターボードの開催(当院第二外科、泌尿器科、放射線科を中心、他施設)			
診 療	0.55	診療活動		0.60	診療活動			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		



(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	河野 俊広		所 属	医学部附属病院歯科口腔外科		職 名	助教		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.20	歯科口腔外科外来での診療やカルテ記載の指導。臨床研修ゼミ(顎変形症、毎週木曜日午後)の担当している。診療時間外での研修医への技術指導や、医学的知識の伝達をおこなう。若手医局員の学会発表への学術、技術的なアシストもおこなう。		0.20	今年度は外来担当であったので、毎日診療終了後のミーティングでその日の新患の病状や治療法の検討をおこない、その際に研修医への指導をおこなった。毎週木曜日の全身麻酔手術カンファレンスのプレゼンテーション作製およびチェックを研修医または若手医局員と共におこなった。医学部学生への顎変形症ゼミを滞りなくおこなった。				
研究	0.30	顎変形症の手術後に生じる知覚鈍麻について、術前術後のCTデータを用いてそのリスク因子検索を複数要素でおこなっている。日本口腔外科学会(2017年10月)に発表予定。長期的な研究として、カーボンナノファイバーの医療用検査機器への応用を計画している。		0.20	顎変形症の手術後に生じる知覚鈍麻について、リスク因子検討を現在もおこなっており、途中経過を日本口腔外科学会(2017年10月)に発表した。カーボンナノファイバーの医療用検査機器への応用のため、情報収集と研究プラン立案おこなった。				
社会 貢献	0.10	JICA事業イベントへの参加。市民公開講座での講演やサポート業務へ参加。琉球大学教育学部附属中学校の校医として、会議への参加と歯科健診のコーディネート		0.10	市民公開講座での講演やサポート業務へ参加した。琉球大学教育学部附属中学校の校医として、会議への参加と歯科健診への人員派遣調整をおこなった。医局派遣の金武町歯科検診に参加した。				
管理 運営	0.10	レジメン委員会へ参加し、新規抗癌薬の臨床治療導入のための調査とレジメン登録作業をおこなう。医局員同僚、後輩からの情報を吸い上げて職場環境改善に務める。		0.10	レジメン委員会委員として、レジメン適応症例拡大を医局員へ説明した。また救急部運営委員会の代理出席時に当科現状などを報告した。				
診療	0.30	外来スタッフとして、当病棟の主たる疾患である口腔がん治療を、検査、告知、手術まで安全、確実にこなえるよう準備および適宜対応おこなう。また顎変形症チーフとして治療法の改善と確実な治療をおこなう。		0.40	口腔がんの紹介患者を、可及的早期また適切な治療おこなえるように各種検査、他科の診療情報聴取、病棟スタッフへの引継ぎ等おこなってきた。顎変形症患者について、術前の術式説明、心のケア、実際の手術施行、術後のフォローなど周術期にわたり関与した。				
計	1.00			1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		又吉 亮	所 属	医学部附属病院 歯科口腔外科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.20	ポリクリ学生へ医科歯科連携の重要性について、将来連携が取れるように講義を行う。研修医への診療指導。医員、研修医が研究活動に興味を持てるように指導。		0.15	臨床業務のため講義ができないことがあった。	
研究	0.30	英文誌へ投稿。国内学会発表。口腔癌治療に関する多施設共同研究に参加。		0.20	英文誌投稿はできなかった。	
社会 貢献	0.05	講座主催の市民フォーラムなどへの参加。主催学会の準備。		0.05	達成できた。	
管理 運営	0.05	病院内各種委員会に参加(救急部、放射線、レジメン、システム、卒後研修、病理部)し、病院運営に積極的に参加。講座ホームページを管理。		0.05	達成できた。	
診療	0.40	外来診療(4日)、病棟診療(1日)。口腔癌治療を中心に外来患者の入院治療準備と術後のフォローを行う。専門医受験の準備。		0.55	明らかに臨床業務に専念しすぎた。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		後藤 尊広	所 属		医学部附属病院 歯科口腔外科
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.10	<p>新たに医局に入局する研修医、また2年目を迎える後期研修医に対する臨床現場での指導。さらに、研究の楽しさを教えるために学会発表指導を行い、大学院への入学の足掛かりとなる存在になりたい。 医学部学生に対しては、講義や手術を通じて、病院歯科の役割などを体感してもらいたい。</p>		0.05	<p>病棟患者担当として主治医グループを任せられ、若い先生とともに周術期管理、手術等を切磋琢磨しながら日々励むことができた。しかしながら、研究の楽しさに繋がるような指導は十分には行うことができなかった。 学生に対してはゼミや手術、病棟回診を通じて病院歯科の役割を体感、伝えることができたと考える。</p>
研究	0.25	<p>1年に1本以上の英語論文執筆、投稿、アクセプト。加えて、学会発表を国内外で行う。 実績が外部獲得資金に繋がることを意識していく。 H27に獲得した若手Bから基盤研究獲得へ繋がるような実績作りをする。</p>		0.25	<p>本年度はimpact factorが1.6の英語論文をアクセプト、国内学会にて発表1回行った。個人としては例年と比較して研究成果は満足いくものとなった。</p>
社会 貢献	0.20	<p>ラオス国における口唇口蓋裂無償手術活動の継続参加。沖縄県内口唇口蓋裂患者家族の会の定期講演主催。感染症関係の講演の受け入れ等多数に及ぶことを実践していきたい。また主催する第14回日本口腔ケア学会学術大会の成功、沖縄口腔ケア研究会の運営等に力を入れている。</p>		0.20	<p>2017年も12月21日から27日の日程でラオス国を訪問し、全21例の口唇口蓋裂患者の手術をトラブルなく遂行することができた。加えて、800名参加の第14回日本口腔ケア学会学術大会の準備委員長、200名参加の第一回沖縄口腔ケア研究会セミナー世話人、6000名の学会員を要する日本口腔ケア学会学術雑誌を編集委員幹事として年2回発刊に携わることができた。</p>
管理 運営	0.05	<p>各種委員会への参加。さらに、臨床では診療報酬向上を意識し、病院収益に貢献する。 特に本年は病棟担当にて病床稼働率の向上ならびに全身麻酔手術件数の向上に力を入れている。</p>		0.02	<p>病棟担当医として、稼働率を常に意識しながら業務を行ったが、月によっては結果に結びつかない時期があった。</p>
臨床	0.40	<p>専門の口唇口蓋裂手術ならびに管理。さらに口腔外科疾患の治療と、口腔ケアに積極的に取り組んでいく。 昨年日本口腔外科学会専門医を取得したため、さらに執刀手術を増やしていきたい。</p>		0.25	<p>口唇口蓋裂手術の執刀、悪性腫瘍手術の執刀、ならびに放射線・化学療法、周術期口腔ケア等、意識的に他分野に関わるよう努力した。しかしながら、十分満足できる結果とは言えず、更なる技術・知識の向上が必要と痛感した。</p>
計	1.00			0.77	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		片岡 恵一		所 属		医学部 歯科口腔外科		職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.30	外科的矯正治療および先天異常疾患に起因する矯正治療に関して、新人教育および学生教育にカリキュラムとして導入する。卒後研修医局員に対し、適切な歯科に関する知識、技術を提供し、今後の進路および得意分野の開発におけるアドバイスをを行う。また、学会発表、論文作成を研修医などを含めて行い、大学院での基礎研究も行う。				0.30	外科的矯正治療および先天異常疾患に起因する矯正治療に関して、新人教育および学生教育にカリキュラムとして導入し医科学研究での成果発表、顎変形症学会での発表の指導を行なった。卒後研修医局員に対し、適切な歯科に関する知識、技術を提供し、今後の進路および得意分野の開発におけるアドバイスをを行なった。また、大学院での基礎研究も行い学位論文の作成を行なっている。				
研究	0.20	外科的矯正治療および先天異常疾患に起因する矯正治療における、機能、形態学的な臨床研究の立ち上げを行う。基礎研究における多施設共同研究の推進を目指す。若手研究Bもしくは基盤研究Cでの競争的資金獲得を目指す。				0.20	顎変形症、口唇口蓋裂に伴う、周囲何組織の形態変化、それに伴う気道、発声についての研究、三次元医用画像による頭蓋顔面の形態と遺伝子の関係について新たに研究の準備を行い、科研費の申請中である。」				
社会貢献	0.10	診療科としての特色である、顎変形症、口唇口蓋裂治療に関しての情報発信を行う。当初、歯科口腔外科のホームページでの情報発信から始めていき、市民公開講座などでの広義での情報提供、歯科健診などのスクリーニングによる狭義での情報提供を行う。				0.10	ラジオぎのわんへの出演などの広報活動、地域歯科医師会での情報交換などにより新患者数の増加が見られた。				
管理運営	0.10	医局長として、所属講座のみならず、他科との質の高い連携が取れるように心がける。				0.10	医局長として医局長会議への出席などを通じて他科との連携を図った。				
外来業務	0.30	顎変形症、口唇口蓋裂、先天異常症例における歯科矯正治療症例、私費の矯正歯科治療、および一般歯科治療より多くの症例を受け入れ、大学病院の診療科としての付加価値を向上する。				0.30	顎変形症、口唇口蓋裂、先天異常症例の増加、私費矯正治療患者の増加が見られた。また、形成外科や小児科からの矯正治療の依頼が増加した。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		我那覇 章		所 属	医学部 医学科	職 名	講師
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.10	学生講義、ポリクリ実習を通じ、学生教育を行う。			0.05	TBL、学生講義、ポリクリ実習、OSCE等を通じ、臨床および医師国家試験に必要な教育を行い得た。	
研究	0.40	沖縄県の難聴遺伝子解析研究を継続し、論文を2編以上報告する。			0.45	研究を継続し、以下7論文(原著2, 症例報告2, 総説3)を報告した。 ①Saito-Boxを用いた顔面神経麻痺の評価. Facial N Res Jpn, 37: In Press ②当科における乳幼児顔面神経麻痺症例の検討. Facial N Res Jpn, 37: In Press(直接指導論文) ③Progressive macrothrombocytopenia and hearing loss in a large family with DIAPH1 related disease. Am J Med Genet A., 173:2826-2830 ④Suprameatal Cochlear Implantation in a CHARGE Patient with a Novel CHD7 Variant and KALLMANN Syndrome Phenotype: A Case Report. Otol Neurotol., 38:990-995 ⑤外耳道後壁保存型鼓室形成術. Otology Japan, 27:141-148 ⑥(総説)側頭骨疾患の困難症例—診断と治療のコツと工夫—コレステリン肉芽腫症. JOHNS, 34:35-40 [In press] ⑦難聴医療の最前線. 沖縄県医師会報, 53:618-624 (2017) [査読無]	
社会 貢献	0.05	市民公開講座や患者団体等における講演やマスコミを通じた耳鼻咽喉科疾患の啓蒙活動を行う。			0.05	・「市民公開講座耳の日講演会」にて講演を行った。 ・「きこえのフェアin Okinawa」にて人工聴覚器の講演を行った。 ・「ぎのわんFM」にて成人の難聴について話した。	
管理 運営	0.05	関連する各委員会への参加および運営を行う。			0.05	医局長会、OSCE(頭頸部責任者)、advanced OSCE等、関連する委員会への参加および運営を行った。	
診療	0.40	診療科として年間150例以上の耳科手術を行う。			0.40	耳科診療班として年間約200件の手術を行うと共に、最新の人工聴覚器医療を行い得た。	
計	1.00				1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		平川 仁	所 属		医学部 附属病院 耳鼻咽喉科	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.20	医学生の臨床実習、講義につき、耳鼻咽喉科、頭頸部外科の臨床的な面から積極的にかかわっていく。		0.20	医学生の臨床実習、講義につき、耳鼻咽喉科、頭頸部外科の臨床的な面から積極的にかかわることができた。			
研究	0.20	頭頸部癌における遺伝子多型の研究により、科研費を取得し研究をすすめている。論文作成を目標とする。		0.20	頭頸部癌における遺伝子多型の研究により、科研費を取得し研究をすすめている。論文作成を目標とする。			
社会貢献	0.20	頭頸部悪性腫瘍の治療を行うことにより社会的貢献できるものと考えている。		0.20	頭頸部悪性腫瘍の治療を行うことにより社会的貢献できたと考える。			
管理運営	0.10	病院管理、運営に積極的にかかわっていく。		0.10	病院管理、運営に積極的にかかわることができた。			
診療	0.30	頭頸部悪性腫瘍の診療を安全かつ積極的に行っていく。		0.30	頭頸部悪性腫瘍の診療を安全かつ積極的に行うことができた。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		上原 貴行	所 属		医学部附属病院 耳鼻咽喉科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.10	病院実習の学生へのレクチャー、OSCEなどの評価者		0.10	病院実習学生へのレクチャー、OSCE評価者など			
研究	0.25	頭頸部癌に対する樹状細胞ワクチンの開発に関する研究(科研費取得済)等の研究		0.10	頭頸部癌に対する授受細胞ワクチンの開発研究			
社会 貢献	0.05	鼻の日講演等の市民講座参加(講演等)		0.05	講演会等			
管理 運営	0.05	病院内会議等		0.10	病院内会議等			
診療	0.45	病棟・外来業務、手術等		0.65	病棟・外来業務、手術等			
計	0.90			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		喜友名 朝則	所 属		医学部附属病院 耳鼻咽喉科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.09	学生講義に臨床に即した話題、過去の国家試験問題などを取り入れながら学生の学習意欲をかきたて、さらに実習では問診や問題解決の方法などより実践的な教育を行う。学生の進路に対して積極的に相談に応じる。			0.10	学生の講義に関しては臨床の事例を交えながら動画を併用し行い、臨床実習生に関しては問診の取り方、診断のアプローチの仕方を中心に臨床に即した講義を行い、なるべく興味を持てるよう努力した。医療面接の講義や試験監督、総合試験の試験監督などを行った。		
研究	0.35	昨年度で科研費助成終了したため、来年度は新たに科研費取得をめざす。引き続き、音声障害、顔面神経麻痺、嚥下などの脳機能についても研究を行う。これらのデータをもとに学会発表、論文投稿を行う。			0.35	音声と脳機能に関する研究が計画通り行えた。音声に関するその他の研究も進めた。国内学会へ報告した。		
社会 貢献	0.03	県内の声楽家が主催する研究会において、音声に関する医学的知識の講演を行い、音声障害予防に関して社会的に貢献する。嚥下障害診療に関して研究会を開き、県内のネットワークを作り治療の質の向上に努める。			0.02	声楽発声学会など県内の声楽家が主催する研究会で、一般の声楽家へ発声に関する講演を行い、地域貢献事業に助力した。		
管理 運営	0.13	外来医長として外来におけるトラブルがないよう対策を考える。手術の日程を無駄なく効率よく行うことができるよう努める。			0.08	外来医長として外来における体制などトラブルがないように努めた。手術の日程を無駄なく効率よく行うことができるよう努めた。また、感染対策委員として感染対策を行った。		
診療	0.40	音声障害、嚥下障害を中心に保存的治療、手術治療にとりくむ。			0.45	計画通り音声障害、嚥下障害を中心に保存的治療、手術治療にとりくんだ。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	大城 匡勝		所 属	医学部 医学科		職 名	助教		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.30	医学部での系統講義ならびにM5、M6への病院臨床実習における指導を行う。初期研修医に対してはマンツーマンにて術前回診から術後回診までを系統的に指導を行い麻酔学を通じて医師としての基本的なあり方を習得させるようにする。後期研修医に対しては麻酔学総論から各論までを日々の症例を通じて系統的に学習できる環境を構築し、その実践をサポートする。		0.30	医学部での系統講義ならびにM5、M6への病院臨床実習における指導を行った。初期研修医に対してはマンツーマンにて術前回診から術後回診までを系統的に指導を行い麻酔学を通じて医師としての基本的なあり方を習得させるようにした。後期研修医に対しては麻酔学総論から各論までを日々の症例を通じて系統的に学習できる環境を構築させ、その実践をサポートした。				
研究	0.15	後期研修医と共に臨床で得られた新たな知見をもとに学術集会、学術誌等で発表を行い、論文作成のサポートを行う。		0.15	後期研修医と共に臨床で得られた新たな知見をもとに学術集会、学術誌等で発表を行わせ、論文作成のサポートを行った。				
社会 貢献	0.20	地域の関連施設に週一回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行う。		0.20	地域の関連施設に週一回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行った。				
管理 運営	0.25	手術室の効率的運営を行えるように、手術室看護師、外科系医師と協力し、手術室稼働の調整を行う。		0.25	手術室の効率的運営を行えるように、手術室看護師、外科系医師と協力し、手術室稼働の調整を行った。				
診療	0.10	附属病院手術室にて業務に専従し、手術を受ける患者に対して安全で高度な医療を提供しつつ術後の回復をサポートする。		0.10	附属病院手術室にて業務に専従し、手術を受ける患者に対して安全で高度な医療を提供しつつ術後の回復をサポートした。				
計	1.00			1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		野口 信弘	所 属		医学部 医学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	学生が積極的に参加できるように講義の工夫を行う。ポリクリ実習学生に対し、当科の役割や面白さを伝え実習指導を行なう。学生および研修医に対し、今後の進路に関する情報を与え指導を行う。			0.20	ポリクリ実習、臨床研修に際しては、実際に参加させ実習、研修に興味を持たせるように行った。また後期研修医、学生への講義をスライド作成に工夫を行い興味が持てる様に行った。		
研究	0.20	臨床研究および基礎研究を通して、医学・医療の発展に貢献できる結果を学会および論文として公表する。			0.20	症例報告の学会発表、学術誌への投稿の指導を行った。また臨床研究の企画、立案を指導をし、倫理委員会に出席した。		
社会貢献	0.10	地域の関連施設に週1回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行う。			0.10	地域の関連施設での麻酔指導及び教育を行った。		
管理運営	0.30	手術室の効率的運営を行えるように、看護師、外科系医師と協力し、手術室稼働の調整を行う。また医局長として医局長会議に、リスクマネージャーとして医療安全に関する各種会議に参加し医療安全に貢献する。手術部副部長の決定まで手術部職員として各種委員会に参加する。医療ガス責任者として点検簿の管理をし、委員会に出席する。			0.20	週間手術予定の作成を行い手術室看護師や外科系医師との調整を行い効率的な手術室運営を行うことができた。リスクマネージャーとして医療安全に関する各種会議等に参加し医療安全に貢献した。		
診療	0.20	附属病院手術室において麻酔業務に専従し、手術数増加のために貢献する。手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供する。			0.30	手術室の効率的運営により、昨年より手術数の増加を図ることができた。また、安全に手術麻酔を施行し、大きな問題なく施行できた。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		西 啓亨	所 属		医学部附属病院 手術部	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.20	医学部学生、初期臨床研修医、後期研修医に対し、実際の麻酔管理についてエビデンスを示しながら指導する。手技に関するシミュレーション教育・周術期管理に関する教育を積極的に行う。		0.10	医学部学生、初期臨床研修医、後期研修医に対し、手技・急変時に対応するシミュレーション教育を目標通り行った。医学部学生に関しては、TBL方式による授業を行った。			
研究	0.20	凝固障害・局所麻酔薬など麻酔関連の臨床研究を計画・実施する。また、その結果を学術集会、学術誌等で発表を行う。		0.10	研究に関しては、継続中で結果発表までには至っていない。			
社会貢献	0.10	地域の関連施設に週一回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行う。		0.10	ほぼ目標通り達成した。海外医療支援活動にも参加した。			
管理運営	0.20	手術室の効率的運営を行えるように、手術室看護師、外科系医師と協力し、手術室稼働の調整を行い、安全・迅速に手術室運営を行う。併せて、物品管理も行い、コスト削減に努める。		0.10	ほぼ目標通り達成した。			
診療	0.30	附属病院手術室において、麻酔業務に専従し、安全に周術期管理を行う。最新のエビデンスを基に診療の質向上に努める		0.60	今年度最もウェイトが重かった。目標通り達成した。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		正本 仁	所 属		医学部附属病院 周産母子センター
職 名				准教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.20	講義および学生実習に際しては、周産期・生殖医学の学術的・技術的発展、医療的倫理を反映した教育内容とする(例: 出生前診断、胎児治療、他診療科と連携した周産期管理等における新しい知識、技術、考え方の紹介)。		0.20	講義および実習では具体的臨床例を示して知識を啓発し、その分野の学術的発展と今後の課題・問題点についても提示した。それらに関する医療倫理的問題についても提示した。他科と連携した診断・治療例を提示し、大学病院における多診療科連携による治療の広がりについても示した。
研究	0.20	英文学術論文を1編以上作成し、学術雑誌への採用を目指す。当科で研究中の子宮円錐切除後妊娠例管理に関する知見や成績、胎児異常の出生前診断に関する知見を学会、ワークショップなどで対外的に発信する。昨年度に申請した周産期関連の臨床研究を進展させる。		0.20	Corresponding authorとして胎児疾患とその病理所見について検討した英文論文を作成、査読ありの国際学術雑誌に投稿した。共著者として英文論文1題。抗精神薬服用妊婦から出生した新生児離脱症候群多数例の解析、抗リン脂質抗体症候群の肝梗塞合併妊娠例の検討を全国学会で発表し支持的意見を得た。子宮円錐切除後妊娠例管理に関する研究を含め臨床研究2題を申請、1題を遂行中。
社会貢献	0.10	研究、診療、学会活動を通じて得た医学的知識、経験を公開講座などを通して提供し、県民の健康向上に貢献する。一昨年母体救命システム普及協議会認定のインストラクターを取得した。実技セミナー開催を通して妊産婦母体救命に関する実技を普及する。		0.10	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Reseachのreviewerとして英文論文査読を通し医学知識の啓発をはかった。母体救命システム普及協議会認定のインストラクターとして妊産婦母体救命講習会を主催し、県内及び県外の産科医、助産師、看護師に実技指導した。
管理運営	0.20	総合臨床研修・教育センターのセンター員を務めており、充実した研修プログラムの運営にあたる。地域周産期センターである当周産母子センターの部長として、臨床研究および診療の充足、若手医師の育成に努める。		0.20	総合臨床研修・教育センターのセンター員として、研修プログラム作成、研修体制整備業務を行い、指導医講習会のタスクフォースを務めた。周産母子センターセンター長として診療体制の充足に努めた。周産母子センターの年間実績についてまとめ、周産期新生児学会へ報告した。
診療	0.30	周産母子センターにおける合併症妊娠例の診療に関して、他科と連携した産科治療を充足させる。		0.30	周産母子センターの総分娩数、出生児数はここ10年間で4番目の件数、帝王切開数は最多であった。母体搬送受入数は52件/年。合併症妊娠症例数は昨年と同等。特に既往帝王切開例、精神疾患合併妊娠例、妊娠糖尿病例が昨年同様に多く、精神科や内科と連携した治療を多く経験した。前置胎盤・癒着胎盤例はここ10年で最多、放射線科と連携した手術療法を多数経験した。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		吉田朝秀	所 属		医学部附属病院周産母子センター	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	学部担当科目(未熟児新生児)を担当し、系統講義、クリニカルクラークシップ医学生に対してベッドサイドティーチング等を行う。初期研修、小児科専攻医のへの研修指導、シミュレーション教育を行なう。			0.20	系統講義、クリクラ学生に対してベッドサイドティーチング等を行った。初期研修、後期研修医のへの研修指導を行った。研修医対象のシミュレーション教育の講師を務めた。研修医、学生の小児医療、周産期医療への関心喚起のため説明会を開催した。新しい専門医制度の小児科学会としての啓蒙やプログラム作成に従事した。		
研究	0.20	小児科・新生児医療に関する学会活動、研究論文の投稿を行う。スタッフの学会参加や研究発表を支援する。			0.20	周産期新生児学会に研究内容を発表した。沖縄小児科学会、沖縄新生児研究会等へ参加し、研修医の学会発表を支援した。		
社会 貢献	0.10	沖縄県周産期ネットワーク活動を通して地域の周産期医療の充実に貢献する。継続して新生児蘇生法のインストラクターとして普及活動に従事する。小児保健協会等の公益に関わる団体の理事として活動する。			0.10	沖縄県周産期ネットワーク協議会委員として『周産期情報共有システム』を運用させている。新生児蘇生法インストラクターとして活動した。小児保健協会、医師会学校医部会、小児科学会の理事、幹事として活動した。		
管理 運営	0.10	各種委員会、その他の会議に参加し管理運営に貢献する。			0.20	集中治療部、周産母子センター、輸血療法委員会、保険診療委員会、脳死判定委員会WG、虐待対応委員WG、交通対策委員会など病院運営等に関わる会議に参加した。		
診療	0.40	附属病院での診療を通して健康維持に貢献し未熟児医療の改善を目指す。市中病院、乳児健診を通して情報の収集と診療技術の向上をめざす。			0.30	周産母子センターで未熟児新生児医療に従事した。市中での救急診療、乳児健診に従事した。予防接種施行などに際してアドバイス、講義を行うなど貢献した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		銘苺 桂子	所 属		医学部 医学科
職 名				講 師	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.15	1. 講義/チュートリアルの充実(学生自身が考えて理解するスタイルへ) 2. 県医師会女性医師部会と合同で医学生/研修医向けキャリアプラン講義を行う 3. 生殖医療専門医の育成 4. 腹腔鏡技術認定医の育成 5. 研修医、後輩医師の教育、学会発表論文投稿の指導 6. 胚培養士の育成・胚培養士認定資格の取得へ向けての教育		0.20	1. 講義/チュートリアルの充実を行った。 2. 県医師会女性医師部会と合同で医学生/研修医向けキャリアプラン講義を行った。 3. 生殖医療専門医の育成を行った。 4. 腹腔鏡技術認定医の育成を行った。 5. 研修医、後輩医師の教育、学会発表論文投稿の指導を行った。 6. 胚培養士の育成・胚培養士認定資格の取得へ向けての教育を行った。
研究	0.20	1. 科学研究費補助金による研究の実施 2. 学会誌への投稿、発表 3. 国際・国内学会での発表		0.15	1. 科学研究費補助金による研究を実施した。 2. 学会誌への投稿、発表を行った。 3. 国際・国内学会での発表を行った。
社会 貢献	0.05	1. 県医師会女性医師部会委員としての活動 2. 学外での産婦人科疾患の啓蒙(啓発)活動 3. 日本産科婦人科学会代議員、日本産科婦人科内視鏡学会幹事、日本生殖医学会代議員としての参画		0.10	1. 県医師会女性医師部会委員としての活動を行った。 2. 学外での産婦人科疾患の啓蒙(啓発)活動を行った。 3. 日本産科婦人科学会代議員、日本産科婦人科内視鏡学会幹事、日本生殖医学会代議員としての参画を行った。
管理 運営	0.20	1. 学部内委員会出席 2. 体外受精・胚移植施行施設としての学会への報告・管理 3. 日本生殖医学会専門医認定施設としての学会への報告・管理 3. 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定施設としての学会への報告・管理 4. 医局長としての活動		0.20	1. 学部内委員会出席した。 2. 体外受精・胚移植施行施設としての学会への報告・管理を行った。 3. 日本生殖医学会専門医認定施設としての学会への報告・管理を行った。 3. 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定施設としての学会への報告・管理を行った。 4. 医局長として活動した。
診療	0.40	1. 安全に十分配慮した医療 2. 患者さんへの説明と同意を十分に得て行う医療 3. 生殖・内分泌治療成績の向上 4. 腹腔鏡下手術件数の増加 5. 腹腔鏡手術適応症例の拡大(悪性腫瘍に対する腹腔鏡手術を安全に行う)		0.35	1. 安全に十分配慮した医療を行った。 2. 患者さんへの説明と同意を十分に得て行う医療を行った。 3. 生殖・内分泌治療成績の向上を得た。 4. 腹腔鏡下手術件数の増加を実現した。 5. 腹腔鏡手術適応症例の拡大(悪性腫瘍に対する腹腔鏡手術を安全に行う)を行った。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		平敷 千晶	所 属	医学部附属病院 周産母子センター	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.10	医学科3年次の産婦人科系統講義、試験を計画する。個人としては性分化異常、不妊、産婦人科内分泌に関する講義を行う。5年次、6年次のポリクリ、クリニカルクラークシップにおいて臨床に即した指導を行い、将来の産婦人科医師増加に寄与すべく努力する。		0.04	産婦人科系統講義、試験を計画し実施した。個人として予定していた内容の講義を行なった。ポリクリ、クリニカルクラークシップの実習指導を行った。	
研究	0.30	甲状腺機能、また卵胞液中甲状腺ホルモンとART治療成績に関する検討を行い論文を作成する。		0.20	甲状腺機能低下症とART治療成績に関する研究を行い日本生殖医学会で発表した。論文作成はまだ終了できていない。	
社会 貢献	0.05	産婦人科領域の市民公開講座開催を準備する。沖縄県医師会女性医師部会のフォーラムに参加する。		0.02	更年期、ホルモン分泌に関する市民公開講座を準備中である。	
管理 運営	0.05	安全対策委員会、放射線部運営協議会、血液浄化療法部運営協議会、CBT作成、総合試験問題作成およびブラッシュアップに参加する。		0.04	安全対策委員会、放射線部運営協議会、血液浄化療法部運営協議会、CBT作成、総合試験問題作成およびブラッシュアップに参加した。	
診療	0.50	一般不妊治療、生殖補助医療、産婦人科内視鏡手術に従事する。		0.70	一般不妊治療、生殖補助医療、産婦人科内視鏡手術に従事した。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		瀧上 竜也	所 属	附属病院集中治療部	職 名	講師
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.25	学生・研修医・看護職員を対象に、院内最重症例を収容するICUスタッフを指導・養成するために呼吸・循環・代謝といった重要臓器の臓器障害の診療に関する知識・技術の教育を行う。人工呼吸や持続透析など生命維持装置の取り扱いを含む医療安全の啓蒙をおこなう。麻酔・集中治療領域の専門家を目指す学生、研修医、看護師に対し最適な進路選択ができるように教室のもつ研修関連施設にとどまらない情報提供を行う。		0.20	学生・研修医・看護職員を対象に、院内最重症例を収容するICUスタッフを指導・養成するために呼吸・循環・代謝といった重要臓器の臓器障害の診療に関する知識・技術の教育を行った。人工呼吸や持続透析など生命維持装置の取り扱いを含む医療安全を啓蒙した。麻酔・集中治療領域の専門家を目指す学生、研修医、看護師に対し最適な進路選択ができるように情報提供を行った。コメディカル向け人工呼吸管理や医療者向け研究論文作成の参考となる教科書を分担執筆した。	
研究	0.15	当院集中治療部におけるPMX-DHPの敗血症治療への有効性を新たに提唱された敗血症診断基準を用いて検証した成果を当該学会で発表や論文作成を行う。新しい人工呼吸モード(適応補助換気など)を用いた人工呼吸管理に関する研究を継続し当該学会での発表や論文作成を行う。		0.20	当院集中治療部におけるPMX-DHPの敗血症治療への有効性を検証した成果を発表し論文作成を指導した(関連学会誌に掲載予定)。新しい人工呼吸モード(適応補助換気)を用いた人工呼吸管理に関する研究を継続し論文発表を指導した(関連学会誌に掲載)。	
社会貢献	0.20	県下の麻酔科医不足の医療機関への派遣によって、安全な術中管理に貢献する。大学内での診療経験や研究から得られた知見を内外の麻酔科・集中治療領域の医師だけでなくコメディカルなどの医療従事者にも講演する機会を積極的に持つ。		0.20	県下の麻酔科医不足の医療機関への派遣によって、安全な術中管理に貢献する。大学内での診療経験や研究から得られた知見を麻酔科・集中治療領域の医師だけでなくコメディカルなどの医療従事者にも講演した。日本麻酔科学会地方代議員として活動し、次期日本集中治療医学会評議員にも立候補し当選した。	
管理運営	0.10	部署リスクマネージャー(ICU)、医療機器安全管理委員会、輸血療法委員会等院内各種委員会の活動に貢献する。ME副センター長の職責を果たす。		0.15	部署リスクマネージャー(ICU)、医療機器安全管理委員会、輸血療法委員会等院内各種委員会、医療機器購入に係る仕様策定委員会の活動に貢献した。ME副センター長の職責を果たした。	
診療	0.30	院内の手術麻酔、集中治療に従事し安全な周術期管理に貢献する。県内唯一の大学病院の集中治療室として補助人工心臓植込みやTAVIの周術期管理など先進・高度で専門性の高い診療を行う。県内唯一の急性血液浄化学会認定施設として、高度なアフエーシス治療を安全に実施する基盤を維持する。		0.25	院内の手術麻酔、集中治療に従事し安全な周術期管理に貢献した。県内唯一の大学病院の集中治療室として補助人工心臓植込みやTAVIの周術期管理など先進・高度で専門性の高い診療を行った。県内唯一の急性血液浄化学会認定施設として、高度なアフエーシス治療を安全に実施する基盤を整備した。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		百名 伸之	所 属	医学部 医学科	職 名	講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.20	医学部学生に対し、臨床講義、TBL、ポリクリ指導を行う。特にポリクリではチュートリアル方式を採用し、学生自ら問題を見つけ出し、それに自由な発想のもとに全員で回答を創造する形式をとる。教官としては必要な医学的情報を提示し、考える力、論理的思考、斬新な発想を促す役割を担う。研修医には臨床の実践を指導する。		0.20	学生の自発性を促すことができ、単なる知識の植え付けではない創造的教育ができた。研修医には毎日のカンファレンス、回診で実践を指導した。	
研究	0.30	多施設共同臨床研究により小児がんの標準的治療を確立する。独自の臨床試験により難治性疾患、慢性GVHDについて新規治療開発を目指す。基礎研究として移植後血管内皮障害と血小板マイクロパーティクルの関連を検討する。論文は英文で主著、共著で2編執筆する。		0.30	多施設共同臨床研究に参加し、症例の登録、データ収集、解析を行い、学会で発表した。また倫理審査承認のもと、慢性GVHDの病態解明の検体収集を行った。血小板マイクロパーティクル関連は助成金を得て研究を開始し、6例の解析が終了している。論文は共著で英文雑誌に2編、邦文雑誌に1編受理された。	
社会 貢献	0.10	骨髄バンク認定施設として、ボランティアドナーの骨髄採取を行う。また、調整医師として、ドナー候補への骨髄採取説明を行う。社会の啓蒙活動として、一般市民への講演を行う。小児慢性特定疾患審査委員を務める。		0.10	月1例程度のバンクドナー骨髄採取を行った。調整医師活動も同程度行った。啓蒙活動として、沖縄県養護教諭研修会での講義、がんの子供を守る会での講演を行った。	
管理 運営	0.10	小児科血液グループの人事、診療、研究の管理運営を行う。		0.10	血液グループの人事異動を行った。また、病棟の入退院の調整、無菌室の保守等を行った。	
診療	0.30	造血細胞移植を積極的に行い、県内での移植医療を完結する。小児がん一般については、沖縄県立南部医療センター・こども医療センターと共同で診療を行う。さらに、血液専門医、小児血液・がん専門医を育成する。		0.30	年度内に6例の造血細胞移植を行った。これにより県外紹介は0であった。小児がん・血液一般の診療を行い、沖縄県立南部医療センター・こども医療センターと共同して県内で完結することができた。また、小児血液・がん専門医、指導医として、若手の育成を行った。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		



(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	浜田 聡		所 属	育成医学講座		職 名	助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.20	臨床実習学生による実習症例報告会 血液フェロー向けの血液腫瘍レクチャー(月2回) 臨床免疫学レクチャー(輪読会)		0.20	計画通りに実施できた。			
研究	0.20	①慢性GVHDにおけるNKG2Dリガンドの役割、②移植後早期心臓のう液貯留の病態解析		0.20	①慢性GVHDおよびNKG2Dに関する論文アクセプト②現在、論文投稿中			
社会 貢献	0.05	骨髄バンクドナーコーディネート実施(月3回)		0.05	実施			
管理 運営	0.05	リスクマネージャー業務、輸血療法委員		0.05	会議に参加			
診療	0.50	外来、病棟患者のマネジメント		0.50	昨年は10症例の同種造血細胞移植を行った。他科診療と連携し小児悪性固形腫瘍の治療を遂行し、外来では急性白血病の維持療法および長期フォローアップを実施			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		平田 哲生		所 属		医学部附属病院 診療情報管理センター		職 名		特命教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.20	学部学生の講義を双方向性に近づける。 臨床実習学生に対するベッドサイドティーチングの充実。				0.10	M3, 4の情報セキュリティ講義を今年度より担当。双方向の講義が実現できた。				
研究	0.20	糞線虫症に関する臨床研究の遂行。 英文誌への論文投稿1編以上行う。 学会での報告発表を1回以上行う。 科研費の獲得。				0.10	臨床研究、学会活動、投稿、研究費の獲得については不十分であった。				
社会 貢献	0.10	学外の研究会への参加・発表を行う。 他施設での講演・講義を行う。				0.05	他施設での講演を1回、研究会での講演を2回行なった。				
管理 運営	0.10	病院内、学部内各種委員会への参加				0.60	多数の委員会への参加を行い、特に病院システム運用に関するリーダーとして積極的に活動を行った。				
診療	0.40	附属病院における診療活動の充実				0.15	外来診療業務は十分行ったが、病棟業務、内視鏡業務は不十分であった。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		芦刈 明日香	所 属		医学部 医学科 腎泌尿器外科学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	臨床実習の学生に対して、学生担当の受け持ちの際にスムーズな実習ができる様配慮するとともに外来・病棟・手術等について説明を行い理解を深めさせる			0.20	目標通り達成できた。		
研究	0.30	昨年に引き続き腹圧性尿失禁の薬物治療についての結果報告を国内外で発表し、論文化する。結果を確たるものにするための追加実験も適宜行う。			0.30	目標通りに実験結果を国内外で発表するとともに、論文化・雑誌アクセプトまで達成できた。追加実験も開始している。		
社会 貢献	0.00				0.00			
管理 運営	0.00				0.00			
診療	0.50	最新の知見を常に勉強し、診療に生かす。また、手術手技の向上、今年度は特に腹腔鏡技術認定医の取得に向けて研鑽を積む。			0.50	概ね目標を達成した。		
計								
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		泉 恵一郎	所 属		医学部 腎泌尿器外科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	・ポリクリ、クリクラ学生の教育、指導		0.20	・ポリクリ、クリクラ学生の教育、指導		
研究	0.20	・学術研究会等(参加、発表、論文)		0.00			
社会 貢献	0.00			0.00			
管理 運営	0.00			0.00			
診療	0.60	・研究成果などを日常の診療に活用する、病棟業務を継続		0.80	ほぼ毎日出勤し、術後患者や担癌患者といった全患者の管理を行った。		
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		仲宗根 哲	所 属		医学部 整形外科	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.20	医学生に対する講義。臨床実習学生に対しては、診察方法やレントゲン読影、患者診察法について講義。M3の臨床実習生に対する研究指導		0.20	M3臨床研究の指導、ポリクリ学生の教育、指導。系統講義			
研究	0.20	特発性大腿骨頭壊死研究の継続、骨粗鬆症の疫学、人工関節感染		0.20	科研研究である特定疾患大腿骨頭壊死症研究、臨床研究など			
社会 貢献	0.05	医療講話、啓蒙活動		0.05	医療講話、啓蒙活動			
管理 運営	0.05	各種委員会		0.05	各種委員会			
診療	0.50	外来診察、手術・入院診療		0.50	外来診察、手術・入院診療			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		石原昌人	所 属		医学部整形外科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.15	臨床実習の指導の充実、学生講義		0.10	ポリクリ、クリクラ学生の指導を担当した。			
研究	0.30	学会誌への投稿・発表、臨床研究		0.30	日本股関節学会発表、日本人工関節学会発表、西日本整形災害外科学会発表、論文投稿			
社会 貢献	0.20	学外の研究会などへの参加		0.20	沖縄関節外科研究会(H29年3月、9月)			
管理 運営	0.05	試験関連業務における具体的貢献		0.05	試験問題作成等			
診療	0.30	診療活動及び医療支援など		0.35	平常の診療業務(外来、手術など)			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		松隈 憲吾	所 属		医学部 医学科
			職 名		助教
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.20	授業においては国家試験を意識した標準的な授業を行う。また、臨床実習においては実臨床に必要な知識も教育していく		0.20	予定していたとおりに施行することができた
研究	0.10	認知症を中心とした診療を行っていくが、現在の沖縄の認知症医療における臨床研究を行っていく		0.05	症例報告レベルの発表のみで不十分であった
社会 貢献	0.20	認知症に対する一般的知識の啓蒙や家族の対応方法など一般市民に対して行っていく。また当院の認知症疾患センターの周知も行っていく。また昨今の問題となっている高齢者の認知症のかたの運転免許などについても疾患センターとして役割を担っていく。		0.25	認知症の医療を担う、福祉系の学科の学生に啓発活動を行うなど、新たに活動範囲を広げた。
管理 運営	0.05	クリニカルパス委員として認知症入院治療など新たなクリニカルパスの作成により画一的、標準化された治療を導入していく。		0.05	検討を行ったが、科の特性もあり、画一的クリニカルパスの設定は難しいと判断した。
診療	0.45	現在の最善の治療を患者様に提供できるように、知識のブラッシュアップや研究などを通して得た知識も患者様に還元していく		0.45	予定していたとおりに施行することができた
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		友利陽子	所 属		医学部医学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	系統講義、グループレクチャー、外来・病棟において研修・実習での指導			0.25	系統講義、グループレクチャー、外来・病棟において研修・実習での指導などを行った。1年次のTBLなど、種々の学生指導にあたった。また、研修医の指導も継続的に行った。		
研究	0.10	学会発表など			0.05	研究面では十分な貢献ができず、症例発表程度にとどまった。		
社会 貢献	0.10	精神科の専門家として、地域住民、地域の精神科関連の専門職に対して精神疾患に対する知識、認識の向上に向けた啓発的介入を行う			0.10	疾病教育の面から、一般市民・専門職に対し精神疾患に対する知識、認識の向上に向けた啓発的介入に当たった。緩和ケア研修会など。		
管理 運営	0.10	薬事委員など			0.10	薬事委員を務めた。		
診療 業務	0.50	新患外来、一般外来、病棟での入院患者の診療			0.50	新患外来、一般外来、病棟での入院患者の診療。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	



(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		富盛 宏	所 属	医学部 医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.20	臨床研修医および医学部学生に対し、精神医学系の系統講義を行うとともに、臨床現場における研修・実習の場面で実地指導を行う		0.20	臨床研修医および医学部学生に対し、精神医学系の系統講義を行うとともに、臨床現場における研修・実習の場面で実地指導を行った。	
研究	0.10	専門領域における児童精神医学領域における研究に関連した講演・学会発表を行う		0.00	実績なし	
社会 貢献	0.10	精神科の専門家として、地域住民、地域の精神科関連の専門職に対して精神疾患に対する知識、認識の向上に向けた啓発的介入を行う		0.10	南風原町いじめ対策委員会に参加し、専門家として計2回助言を行った。	
管理 運営	0.10	所属診療科の病棟長として診療科長の指導監督の元で病棟の管理運営を行う		0.20	病棟長業務を行った	
診療 業務	0.50	琉球大学医学部附属病院の精神科神経科にて新患外来および病棟において、一般患者における診療、また専門外来(児童思春期外来)を担当し、県内における専門的な治療を行う		0.50	琉球大学医学部附属病院の精神科神経科にて新患外来および病棟において、一般患者における診療、また専門外来(児童思春期外来)を担当し、県内における専門的な治療を行った。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		原永 修作	所 属		医学部附属病院 総合臨床研修・教育センター
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.20	総合臨床研修センター医科部門長として 研修医のキャリアプランをサポートする 学生講義担当として、学生の知識向上をサポートする		0.30	10月より総合臨床研修・教育センターの専従教員(特命准教授)に就任、 研修医のレクチャーやケースカンファレンス、研修終了書類作成、キャリア プランをサポート。
研究	0.20	潜在性結核感染症症例検討 プロカルシトニン高値例の検討 沖縄県内における難治性喘息患者の検討		0.20	潜在性結核感染症症例の検討の論文化。 感染症学会総会にてプロカルシトニン高値例の検討について発表。
社会 貢献	0.10	医師会主催(共催)講演会や地域向け講演会等で非専門医、患者 に対して教育を行う		0.10	県内の各種研究会にて演者、座長などを担当し非専門医、コメディカル への知識伝達に努めた。市民公開講座で講演を担当。
管理 運営	0.20	下記各種委員会で学部、病院の管理に携わる 医学教育分野別認証に向けた新カリキュラム編成委員 安全管理委員会(GRM)、医療機器安全管理専門委員会 光学診療部運営委員会、診療情報管理センター委員会		0.20	各種委員会に継続的に関わった。 診療情報管理センターでは副センター長として電子カルテ記載の質的評 価に関わる。 安全管理委員会ではGRMとしてインシデント症例の聞き取りなどに関与。
診療	0.30	週2回の外来診療にて患者を診療する 病棟にて若手医師のへ診療支援 他科からのコンサルトに積極的に対応する 気管支内視鏡特殊手技の対応		0.20	外来診療、病棟コンサルトを担当。 呼吸器内視鏡においては若手医師の指導。 呼吸ケアサポートチームとして毎週回診。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城 達也	所 属		医学部 第一外科	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	医学部医学科の学生に対して:画像を取り入れた視覚に訴える講義を行う。シュミレーション器材を利用した外科手技実習を行う。 初期研修医に対して:基本的な外科知識・手技の獲得の指導を行う			0.25	達成できた		
研究	0.30	他の教員と共同で、消化器外科学領域の研究成果を学会などで発表する。1編以上の論文を執筆し、発表する。医局員の専門医取得に関連する論文執筆指導を行う。競争的研究資金申請し、臨床研究を行う。			0.20	英語論文については1編を執筆中の状態である。その他は達成できた。		
社会 貢献	0.05	医療行政に関連する行事に参加し、自らの専門知識によって地域医療に貢献する。			0.05	達成できた		
管理 運営	0.15	医学部、医学部付属病院の各種委員会に参加して管理運営に貢献する。			0.15	達成できた		
診療	0.30	患者さまの診療について、特に消化器外科学会について、学会、研究会などを通じて最新の情報の獲得、手術技術の研鑽を継続的に行い、各診療科、各部門と連携しながら最適な診療の提供につとめる。			0.35	達成できた		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		伊禮 靖苗	所 属		医学部 医学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.15	①医学部の学生に対して、講義を担当する。②4-6年生の臨床実習においてベッドサイドまたはレクチャーでの教育指導を行う。レポート作成の指導を行う。		0.15	①去年と比較し内科講義内容を確認し修正した上で行った。②一度当科の実習を経験した学生は、レポート作成スキルが上達していた。			
研究	0.25	①主に消化器外科についての臨床研究成果をまとめ学会発表する。 ②論文を執筆する。		0.30	①大腸肛門病学会に研究内容をまとめ発表した。発表はその他5件行った。②現在論文投稿中である。			
社会貢献	0.10	①地域の病院で総合内科および消化器外科に関する技術を用いて地域医療に貢献する。②所属する学会で積極的に発表、講演会に参加し、外科学の進歩に貢献する。		0.20	①外来で行っている。②手術手技見学も含め、学会、研究会へ積極的に参加し、知見を集取した。			
管理運営	0.10	①医学部附属病院の各種委員会に参加し、管理運営に貢献する。		0.10	①抗癌剤レジメン運営委員会、研修企画ワーキンググループ、輸血療法委員会へ参加			
診療	0.40	①研修医に対し、チューターとして仕事に関する日頃の悩みや、将来の進路の相談役となるよう努める。②医学部附属病院で消化器外科における手術、検査、外来、病棟管理に従事する。中でも患者さん、家族によりわかりやすい説明を行うよう努める。		0.25	①研修医に対し、チューターとして仕事に関する日頃の悩みの相談役となるよう努めたが診療時間内で接触する機会が少なかった。②外来の業務が多くなり、病棟管理、検査担当機会がやや少なくなった。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		狩俣 弘幸	所 属		医学部 消化器・腫瘍外科学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	医学部医学科の学生に対して:画像を取り入れた視覚に訴える講義を行う。講義の理解にカギとなる図表などは学生に配布する。臨床実習でローテートしてくる学生に授業・実習の履修状況を聴取し、適切な指導を行う。卒後の進路について、学生自ら進路決定を適切に判断できるように助言を行う。			0.20	医学部医学科の学生に画像を取り入れた講義を行った。図表など講義内容は学生に配布した。シミュレーション器材を利用して外科手技実習を指導した。		
研究	0.15	他の教員と共同で、消化器外科学領域の研究成果を学会などで発表する。1編以上の論文を執筆し、発表する。			0.15	3学会で発表を行った。		
社会 貢献	0.10	医療行政に関連する行事に参加し、自らの専門知識によって地域医療に貢献する。			0.10	新外科専門医制度のプログラム策定・連携を行った。		
管理 運営	0.20	医学部、医学部付属病院の各種委員会に参加して管理運営に貢献する。			0.20	病院の各種委員会に参加、管理運営を行った。共同指導や診療報酬改定による対応などもあり、例年よりも多く委員会への参加・活動を行った。		
診療	0.35	外来診療、入院患者の病棟管理、手術を行う。			0.35	外来診療、入院患者の病棟管理、手術を行った。また、病棟医長として病棟管理を行った。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	宮城 一也		所 属	医学部 附属病院 第一内科	
職 名	講師				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●病棟実習において、活発に意見を述べるができる環境を作る</li> <li>●可能な限り実技を見学させ、その方法や意義の理解を深める方法を構築する。またクリニカルクラークシップの学生には積極的に診療に加われるよう配慮する</li> <li>●講義において学生がより興味を持てるよう常に内容を更新する</li> </ul>	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●病棟実習において学生は積極的に意見を述べるができるようになった。</li> <li>患者さんとも積極的にコミュニケーションをとる学生が多かった。</li> <li>●手技に関しても可能な限り研修医に指導し、実施させた。</li> <li>●CDを用いて呼吸音を聞きながら講義も行った。今後はシミュレーションセンターも用いた講義も企画していきたい</li> </ul>	
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学会発表を積極的に行う。</li> <li>●発表したものに関して学会誌へ投稿する。</li> <li>●常に基礎研究と臨床の接点を模索する</li> </ul>	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>●昨年度にくらべ学会発表がやや少なかったが研修医にも指導し学会発表を経験させた。</li> <li>●後期研修医を指導し沖縄県医学会雑誌に投稿することができた。</li> </ul>	
社会 貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学外の研究会に積極的に参加し、機会があれば市民公開講座などにも協力する</li> </ul>	0.05	研究会の世話人として研究会を盛り上げるようにした。また当科主催の学会(地方会)の開催に協力した。	
管理 運営	0.10	学内の運営委員会へ出席し、必要であれば積極的に意見を述べる。	0.10	複数の委員会に出席した	
診療	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>●外来診療において可能な限り患者さんを待たすことのないようこころがけ、また診療の質も落とさないよう留意する。逆紹介も積極的に行う。</li> <li>●他院からの紹介に対し適切な検査、治療を行うことでさらに連携を深めていく</li> <li>●病棟診療においてエビデンスに基づいた診療を行うことはもちろんのこと、常に患者様の不安を取り除けるよう気を配る。</li> </ul>	0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>●積極的に逆紹介を行うことで患者の数が減り、待ち時間減少、診療の質の向上を図れた。</li> <li>●病棟でも研修医を指導しながらより質の高い医療の提供を心掛け、実際に実践することができた。また病棟医長として師長と連携してベッドコントロールなどを行い病棟業務が円滑に運営できるようになった。</li> <li>●気管支鏡検査にも力をいれ施行数を増やすことができた。</li> </ul>	
計	1.00		1.00		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		前城 達次	所 属	医学部附属病院第一内科	職 名	特命講師
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.10	沖縄県の肝疾患の特徴などを踏まえた教育		0.05	沖縄県の肝疾患の特徴などを踏まえた教育	
研究	0.30	HCV, HBVや、アルコール性肝疾患に関する臨床研究を中心に進める		0.15	HCV, HBVや、アルコール性肝疾患に関する臨床研究を中心に進める	
社会 貢献	0.60	肝疾患診療連携拠点病院における特命として、沖縄県の肝疾患診療の向上を目的とした情報収集、情報提供、患者相談など。		0.60	肝疾患診療連携拠点病院における特命として、沖縄県の肝疾患診療の向上を目的とした情報収集、情報提供、患者相談など。	
管理 運営	0.00			0.00		
診療	0.00			0.20	肝疾患診療連携拠点病院としての肝臓病外来として各施設からの紹介患者への対応	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月10日(月)までに評価者へ送付	⇒	評価者は、必要に応じ、4月14日(金)までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月21日(金)までに三者間(評価者、当該教員、部局等の長)で調整	⇒	評価者は、本シートを4月28日(金)までに部局長等へ送付	⇒	事務局は、シートを取りまとめ5月31日(水)までに経営戦略課へ提出	⇒	各教員は、「年度末自己点検結果」を記入し、30年2月2日(金)までに評価者へ送付
---------------------------------------	---	--	---	------------------------------	---	-----------------------------------	---	--

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	石田明夫	所 属	医学部附属病院	職 名	診療准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統講義: 国家試験を題材として利用し、学生参加型講義で自己学習意欲を高める。webclassやアンケートを活用し、学生からの意見を聴取し、双方向性の講義を実践する。</li> <li>・ベッドサイド実習: ポートフォリオ等を活用して学生の臨床知識習得意欲を高めるようにする。</li> <li>・医員のリサーチマインドを高めるようカンファレンスで積極的に発言する。</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>●系統講義・大学院講義を担当し、学生の学習意欲を促進するよう努め、アンケートでも好評を得た。</li> <li>●ポリクリ・クリクラ学生の最終カンファレンスを担当し、学習意欲を高める指導をした。</li> <li>●ポートフォリオを活用し、学生自身による到達度の確認、教員からのフィードバック体制を作った。</li> <li>●毎日朝夕の病棟カンファレンスに参加し、医員・研修医・学生を指導した。</li> <li>●医員の研究を指導し、国内・国際学会発表を行った。</li> <li>●M3学生の臨床研究を指導した。</li> </ul>
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの研究成果を国際学会誌に投稿・発表する。</li> <li>・国内・国際学会(欧州高血圧学会、高血圧学会、循環器学会、腎臓病学会など)で研究成果を発表する。</li> <li>・京都大学東南アジア研究所・高知大学との共同研究をまとめて学会・論文発表を行い、共同研究を継続して実施できるようにする。</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●京都大学東南アジア研究所等とインドネシア領パプア州住民の食生活と血行動態に関する共同研究調査を実施した。</li> <li>●これまでの研究成果を国内・国際学会で発表した(Pulse of Asia、欧州高血圧学会、日本高血圧学会)。高血圧学会では高得点演題に選ばれた。</li> <li>●共著論文を発表した。</li> </ul>
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果を研究会で発表し、実地医療での臨床応用を図るべく、共同研究を構築する。</li> <li>・名桜大学の学生講義を担当し、コメディカルへの教育を実践する。</li> <li>・他施設の倫理委員会メンバーとして参画する。</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>●名桜大学、沖縄看護専門学校の学生講義を担当した。</li> <li>●浦添市医師会学術講演や地域の研究会で講演を行なった。</li> <li>●他施設の倫理委員会メンバーとして役割りを担った。</li> </ul>
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内の各種委員会の委員としての役割を果たす。</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療適正化WG、医療材料検討委員会、医学教育連絡係、等の委員として役割りを果たした。</li> </ul>
診療	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門診療(動脈硬化、高血圧、腎臓病など)を外来・病棟で実践する。</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●専門外来を継続して行なった。</li> </ul>
計	1.00			1.00	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。
  学内外公表に同意しない。



(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		崎間 洋邦		所 属		第三内科		職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.30	①M3講義(脳血管障害), ②M5, M6のベッドサイドでの神経診察指導, ③M4のTBL講義				0.30	①M3講義(脳血管障害、脳神経超音波検査)担当を行った。 ②M5、M6の神経診察指導をベッドサイドで朝夕回診時に行った。 ③M4に対してTBL(意識障害)を行った。				
研究	0.30	①後期研修医および医員の論文, 症例報告作成支援, ②おきなわ脳卒中地域連携事業のデータ解析, 公表. ③臨床研究を行い学会発表・論文作成を進める.				0.20	①後期研修医および医員に計4回、学会での症例発表指導を行った。 ②おきなわ脳卒中地域連携事業データ解析結果を脳卒中地域連携委員会総会で発表した。				
社会貢献	0.10	①おきなわ脳卒中地域連携事業の推進, ②臨床研究から得られた知見を広めていく.				0.20	①おこなわ脳卒中地域連携事業で県内の状況を報告し、急性期と回復期、維持期医療との連携を充実させていく必要があることを確認した。 ②英文学術誌の査読依頼1件、和文学術誌の査読依頼2件に対応した。 ③日本脳卒中協会沖縄県支部の副支部長を務め、市民公開講座を行った。				
管理運営	0.10	①外来医長業務, ②診療報酬委員会等各種委員会への参加および医局員への周知,				0.10	①②外来医長業務、各種委員会の業務を滞りなく行った。特にクリニカルパス検討部会の委員としての活動では、診療科で2つの新規パスを作成に関わった。				
診療	0.20	①朝夕の病棟神経グループ入院症例の回診, ②外来診療業務, 神経疾患コンサルト(救急含む)対応,				0.20	①朝夕の病棟回診を滞りなく行い、神経グループ患者のマネージメントを行った。 ②コンサルト対応は若手医師と共に行った。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		池宮城 秀一	所 属		大学院医学研究科 循環器・腎臓・神経内科学	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.20	系統講義、TBL、臨床実習を担当し、循環器の基本を取得できるように支援する。病棟実習生と初期研修医のチューターとして、ポートフォリオを利用してカルテ記載やプレゼンテーション能力が向上するよう支援する。		0.20	系統講義で胸部救急と肺循環を担当し、学生が基本的知識を取得できるよう支援した。実際の症例やシュミレーターを用いて、病棟実習生が心電図、聴診の基本を取得できるように支援した。毎日の回診で担当症例のディスカッションを行い、病棟実習生や初期研修医の発表能力が向上するよう支援した。			
研究	0.20	脂質とレオロジーの関係につき検討を進め、論文作成を進める。肺高血圧と活性酸素、レオロジーなどの関係に関して検討する。アキレス腱肥厚と動脈硬化の関係に関して検討する。		0.20	脂質とレオロジーの関係およびABIと左室肥大の関係についての論文を作成中である。アキレス腱肥厚と循環器疾患の関係についての臨床研究を開始し、データを収集中である。肺高血圧と活性酸素やレオロジーとの関係についての臨床研究を検討している。			
社会貢献	0.10	肺高血圧症を含めた循環器疾患の知識の普及に努め、生活習慣の修正や治療法への理解を促し、臓器障害の発症・進展予防を目指す。		0.10	肺高血圧症を含めた循環器疾患の知識の普及のために、研究会の開催や講演を行った。			
管理運営	0.10	循環器グループの診療体制の合理化及び円滑化に取り組み、総合診療部の活性化も支援する。		0.10	医療機器安全管理委員会、保険診療・DPC委員会の委員として病院の運営に関わった。循環器グループの診療体制の合理化及び円滑化に取り組んだ。			
診療	0.40	循環器疾患を中心に外来診療を行い、朝夕の病棟回診を通して、入院主治医への助言を行う。		0.40	毎日の回診で担当症例のディスカッションを行い、必要に応じて入院主治医への助言を行い日常診療を支援した。循環器疾患患者の主治医として、外来診療を担当した。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		稲福 齊	所 属		医学部 附属病院 第二外科
			職 名		講師
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.20	1. 学生に対する講義(M2, M3,M5); 心臓・大血管の奇形。重症心不全の外科治療、補助人工心臓治療。2.臨床実習学生に対する臨床実習指導(心臓手術における術前、術後管理、心臓カテーテル検査方法、レポート作成)。各グループへのミニ講義を行う。		0.10	1. M2, M3に対する“重症心不全の外科治療”講義を行った。M5に対する“補助人工心臓治療”講義を行った。2. 臨床実習学生に対する指導、特にベッドサイド、手術室での術前術後管理や手術所見の指導を行い、レポート作成の指導を行った。補助人工心臓治療に関しては実際の患者に協力してもらいミニ講義を行った。
研究	0.20	1.臨床研究:①大動脈弁疾患に対する自己心膜を用いた大動脈弁再建術に関する研究。②重症心不全に対する 植込み型補助人工心臓治療に関する研究。③Budd-Chiari症候群患者に対する調査研究。2. 各種学術集会への参加、発表。		0.30	1. ①“自己心膜等を用いた大動脈弁再建術”に対する他施設共同研究に参加し、倫理委員会申請書作成、データ入力を行った(計22例)。②“重症心不全に対する植込み型補助人工心臓治療”に関する他施設共同研究に参加し、データの登録を行った。③“Budd-Chiari症候群に対する調査研究において厚労省科研事業における班会議に出席し、当科での治療成績を報告し、同疾患に対する他施設共同でのガイドライン作成を行った。
社会貢献	0.20	心臓移植を目指した植え込み型補助人工心臓治療を社会的に認知されるよう啓蒙活動を行う(心不全研究会の開催、医療施設へ出向いて患者のコンサルトを受けたり講演を行う)。		0.10	沖縄県内の訪問看護師、消防士、医療サービス業者を対象に“植込み型補助人工心臓患者の在宅医療”を目的に講演を行った。他院へ出向いて患者およびその家族へ補助人工心臓治療の説明を行った(1回)。他院で“補助人工心臓治療(適応とタイミング)”に対する講演を行った(1回)。
管理運営	0.10	1.医療機器安全管理委員会への参加、2.心臓移植適応委員会、植え込み型補助人工心臓適応委員会への資料作成協力。3. 在宅医療推進センター員としての活動		0.10	1. 月1回の“医療機器安全管理委員会”に参加した。2. 心臓移植適応委員会、植え込み型補助人工心臓適応委員会への資料作成協力を行った(2例)。3. 在宅医療推進センター員として会議に出席した。
診療	0.30	1.心臓血管外科疾患領域患者への外来診療、2.心臓血管外科疾患への術前、手術、周術期管理、3. 補助人工心臓患者の入院、外来診療、心臓移植サポート、在宅医療支援、4. 心臓移植患者の外来診療		0.40	1. 週1回の外来診療を担当した。2. 心臓血管外科疾患患者に対する術前術後管理、手術を行った。3. 植込み型補助人工心臓患者の入院、外来診療、心臓移植施設との連携を行った。1例が心臓移植へ到達した。5例在宅医療を導入した。4. 1例の心臓移植患者の外来診察を行った。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		新垣 涼子	所 属		医学部 附属病院 第二外科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	臨床実習学生に対する実習指導、レポート作成。またM4学生のOSCE指導。初期およびコウキ研修医への臨床指導を行う。		0.20	ポリクリ・クリクラ学生に対する指導・レポート添削を行った。また、OSCE実習指導を行った。その他病棟ナースに対する講義を行った。		
研究	0.10	臨床研究:日本人の人工弁置換患者における抗血小板療法の有効性及び安全性に関する臨床研究		0.10	九州・沖縄地区アスピリンに関する会議に参加した。		
社会 貢献	0.10	これまでの手術成績などをまとめ学術集会または論文で公開する。		0.10	日本血管外科学会総会にて発表した。		
管理 運営	0.10	感染実務者会議への参加		0.10	2ヶ月に1回開催される感染対策実務者会議に参加した。		
診療	0.50	心臓血管外科領域患者への外来診療および週3回の定期手術と周術期管理。		0.50	週1回の外来診療を継続し、執刀医として10例の心臓血管手術を施行した。また、周術期管理を行った。		
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		永野 貴昭	所 属		第二外科
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.20	1)臨床実習の中で、最先端医療の技術・手技をわかり易く説明し、理解を深めるよう心がける。 2)手術で実際に使用する器具・機器に直接触れることで、胸部心臓血管外科領域への関心を高める。 3)医師国家試験成績改善へ向けての対応も引き続き充実させる。		0.20	1)2)臨床実習の中で、血管内治療(大動脈ステントグラフト・経カテーテル大動脈弁植え込み術)をビデオ形式、またはデモンストレーション形式にて行い、手術術式への理解を深めることができた。手術中にも、実際の術中画像・使用機器を使用し、説明を行った。学生間で互いの知識交換を図るよう工夫した。 2)学生講義の際に、国家試験・各試験への対策を中心に、ガイドラインを参考にしながら講義を行った。現状および最新の手術治療に関する内容も盛り込み、本領域への関心を持てるよう工夫した。
研究	0.10	1)J-ORCHESTRA(弓部大動脈瘤に対する、弓部置換術およびオープンステントグラフト術比較試験)多施設臨床研究への参加 2)急性大動脈解離に対する胸部ステントグラフト治療用デバイスの多施設臨床研究への参加		0.10	1)J-ORCHESTRA(弓部大動脈瘤に対する、弓部置換術およびオープンステントグラフト術比較試験)多施設臨床研究へ参加し、現在データを報告中である。2)急性大動脈解離に対する胸部ステントグラフト治療用デバイスの使用成績調査への参加し、経過報告中である。
社会貢献	0.10	1)心臓弁膜症・大動脈瘤に対する低侵襲治療に関して、県内外の一般市民へ啓蒙活動を行う。 2)新規導入機種における安全な手術手技を、全国の血管外科医へ普及する。		0.10	1)県民公開講座、離島施設での講演、他府県での研究会講演にて血管内治療および経カテーテル大動脈弁置換術に関しての最新情報を提供した。 2)自施設で、他都道府県の医師に対してのワークショップを開催し、新規導入機種における知識の普及を行った。
管理運営	0.20	1)病棟医長として、当該診療科の更なる平均在院日数改善、稼働率向上を図る。 2)緊急患者受け入れ(当該関連疾患)に関して、治療圏拡大を図り、手術件数の増加に貢献する。 3)GRMとして、当院の安全かつ質の高い医療を目指す。		0.20	1)当該診療科の平均在院日数改善、稼働率向上へ貢献できた。 2)緊急患者受け入れ(当該関連疾患)に関して、積極的に他施設へ訪問し、当施設の受け入れ態勢をアピールした。緊急患者の受け入れ、手術件数の増加に繋がった 3)GRMとして、当院の安全かつ質の高い医療へ貢献した。
診療	0.40	1)今後新規導入予定のステントグラフトを国内先行使用することで、当施設の差別化を図る。 2)新規導入機種に関してのワークショップを当施設にて行い、県内外の医師に技術提供を行う。		0.40	1)新規導入ステントグラフトを実際に国内先行使用し、治療成績を他都道府県にて発表・情報提供を行った。 2)ワークショップを開催し、参加された多くの医師より、当施設の治療体制・手術手技に高い評価を得た。
計	1.00			1.00	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		屋比久 浩市	所 属		医学部附属病院 第二内科	職 名	講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	学生向け教育・指導を徹底する。研修医の指導[問診・身体所見のとり方、疾患鑑別、治療、他、(ホルモン)採血等のスキル]。大学院生や研究初心者の指導[技術的な指導の他、研究の進め方、解析方法等]を行う。		0.20	学生向け講義3コマ及び研修医向け講義2コマ行った。OSCE及びBPEを担当した。また、研修医3人のA疾患レポートチェックを担当した。		
研究	0.20	代謝内分泌、特に生活習慣病関連の研究および論文化を積極的に進める。研究費取得を目指す。		0.20	臨床研究を英語論文にまとめアクセプトされた。基礎研究は、採択された科研費最終年度をまとめ提出した。		
社会貢献	0.20	研究結果の論文化による公表、および国内外学会での発表、講演発表、研究結果の臨床現場への還元(患者さんへの生活指導および治療)		0.20	自身の上記研究成果を公表し、積極的に患者さんへの指導および治療にも適用した。		
管理運営	0.20	院内・学内の各種委員会における職責を十分に全うする。		0.20	救急部運営協議会委員・レセプト担当医・共通研修企画運営委員・インスリンワーキング委員・薬事委員を担当した。また、琉球大学教授職員会員として雇用に関する意見書を提出した。		
診療	0.20	糖尿病、高血圧、脂質異常症患者の治療において、ガイドラインの数値目標に近づけるようにする。内分泌疾患患者においては、適切な検査、診断、治療法に則り診療を行う。		0.20	患者さんとのコミュニケーションはもとより、ガイドラインに則った適切な生活指導、検査、診断、治療計画を立てることができた。ただし、全ての患者さんで十分な治療目標に達したわけではなく、また、個々のコンプライアンスやアドヒアランスを考慮した診療の必要を感じている。		
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	池間 朋己		所 属	医学部 第二内科		職 名	講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	代謝学講義1コマ、内分泌講義1コマ、症候学講1コマを行い、試験問題作成をする。CBT、総合試験問題の作成を行う。TBLの講義を行う。病棟実習の学生へのカンファレンスで指導を行う。		0.20	左記事項について行うことができた。		
研究	0.10	論文作成を行う。糖尿病学会・内分泌学会・内科学会における、後輩医師が作成した発表スライドの確認をする。		0.10	論文作成はできなかった。発表スライドの確認は行った。		
社会 貢献	0.10	小児糖尿病サマーキャンプ・糖尿病週間に参加する		0.10	小児糖尿病サマーキャンプに参加した。		
管理 運営	0.20	医局長として医局内の管理・運営を行う。		0.20	左記事項について行うことができた。院内の3つの委員会の委員を務めた。		
診療	0.40	火・水の外来診療を行う。他科入院患者の血糖管理を行う。グループ長としてカンファレンスにて後輩医師への助言を行い、個々の患者の方針決定を行う。		0.40	左記事項について行うことができた。		
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		仲村 英昭		所 属		医学部附属病院 第二内科		職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.15	学生対象の講義、初期研修医対象のレクチャーを行う。昨年度に引き続き、「甲状腺総論」「代謝疾患におけるトピックス」「肥満症」をテーマとした学生対象の講義を担当する予定である。				0.15	予定通りに講義を実施した。				
研究	0.10	生活習慣病を予防・改善する沖縄県高機能米開発(難消化米プロジェクト)に取り組む。				0.05	他論文の共著者としての活動などはあったが、1年を通して十分な取り組みができたとはいえない。				
社会 貢献	0.15	学会発表、症例報告論文の作成・発表に取り組む。				0.15	筆頭者として2件の発表を行った。また、栄養管理部の学会発表に関する指導を行った。				
管理 運営	0.20	院内・学内の各種委員会における職責を全うする。昨年度に引き続き、主に病棟医長(9階西病棟)としての職務を行う予定である。				0.15	各種委員会、および病棟医長としての職責に取り組んだが、十分とはいえない。				
診療	0.40	入院患者診療、および外来(週1回)の診療に取り組む。				0.50	入院患者診療、および外来(週1回)の診療に取り組んだ。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		中山 良朗	所 属		第二内科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.20	学生のポリクリ、講義、研修医に丁寧にわかりやすく指導する。 楽しく仕事してる姿をみせる。		0.20	学生からの感想で、学生に対する教育が不十分だったことを認識させられた。			
研究	0.30	大学院の集大成として、臨床研究テーマを仕上げて学位を取得する。		0.30	不十分ではあるが、研究テーマは確立しゴールは見えてきたので従来よりは進歩したと思う。			
社会 貢献	0.10	学会発表、講演会、小児サマーキャンプ、糖尿病週間など積極的に取り組む。		0.10	大きな学会発表(ランチョンセミナー)や講演会もこなしたので、まずまずできたと思う。			
管理 運営	0.10	院内の各種委員会における職務を全うする。		0.10	外来医長やその他職務を遂行できた。			
診療	0.30	外来患者、入院患者を一例一例丁寧に深く掘り下げて診る。		0.30	全体の把握、学術的な視点、後輩への指導などはまだまだ不十分ではあるが、外来活動は十分に貢献できていると思う。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		難波 豊隆	所 属	医学部 医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.15	学生講義およびポリクリ学生の指導、初期研修医の進路相談を行う。		0.10	学生講義およびポリクリ学生の指導、初期研修医の進路相談を行った。	
研究	0.30	大学院で研究を行う。		0.20	臨床研究で症例登録を推進した。	
社会 貢献	0.10	小児糖尿病サマーキャンプを運営する。		0.10	小児糖尿病サマーキャンプを運営した。	
管理 運営	0.05	リスクマネージャーを担当する。		0.05	リスクマネージャーを担当した。	
診療	0.40	外来および病棟業務を行う。		0.55	外来および病棟業務を行った。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		川妻由和	所 属		医学部附属病院
			職 名		特命准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.60	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域枠学生・地域枠卒業生・その他県医師確保修学資金等貸与生と、可能な限り面談を実施し、学習支援並びに本人の意向を尊重したキャリア支援を行う。</li> <li>・医学概論(M1前期)講義を担当する。医学外国語(M2前期)講義を担当する。</li> <li>・M4学生離島地域病院実習・M1地域医療実習・学生企画 地域医療を学ぶための学生セミナー(医学教育企画室主催)、離島医療体験(県主催)にて学生教育および実習指導を分担する。</li> <li>・救急部で臨床実習中の学生に教育および実習指導を行う。</li> </ul>		0.70	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域枠学生・地域枠卒業生・その他県医師確保修学資金等貸与生110名に面談を実施し、学習支援並びに本人の意向を尊重したキャリア支援を行った</li> <li>・医学概論(M1前期)講義を担当した。</li> <li>・医学外国語(M2前期)講義を担当した。</li> <li>・M4学生離島地域病院実習・M1地域医療実習・学生企画 地域医療を学ぶための学生セミナー(医学教育企画室主催)、離島医療体験(県主催)にて学生教育および実習指導を分担し、特にコンピテンシーに係る態度面を重点的に教育した。その結果各実習先からは高い評価を受けている。</li> <li>・救急部で臨床実習中の学生に教育および実習指導を行った。</li> </ul>
研究	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県における医師不足状況、医師の地域偏在に関する研究を行ない、その成果を沖縄県医師会医学会総会で発表するとともに、論文化を図る。</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県における医師不足状況、医師の地域偏在に関する研究を行ない、その成果を第124回沖縄県医師会医学会総会で発表し、沖縄医学会雑誌に論文を投稿した。</li> </ul>
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係諸機関と連携し、地域に必要とされる医療の確保に努める。</li> <li>・全国地域医療教育研究会への参画</li> <li>・九州地域医療教育研究会への参画</li> <li>・各高校における入試説明会へ参画し、地域枠制度の周知に努める。</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係諸機関と連携し、地域に必要とされる医療の確保に努める。</li> <li>・2月16日 第8回全国地域医療教育研究会へ参加予定である。</li> <li>・4月8日 第7回九州地域医療教育研究会へ参加した。</li> <li>・8月27日八重山高校、9月6日宮古高校における入試説明会にて、地域枠制度の周知に努めた。</li> </ul>
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県地域医療支援センター運営委員会(1-2回開催予定)。</li> <li>・沖縄県地域医療支援センター委員会(1-2回開催予定)</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県地域医療支援センター運営委員会を2回開催した。</li> <li>・沖縄県地域医療支援センター委員会を2回開催した。</li> </ul>
診療	0.10	救急部の診療を概ね週一回担当する。		0.10	救急部の診療を概ね週一回担当した。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		高橋 秀徳	所 属		琉球大学医学部附属病院 地域医療部
			職 名		特命講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来化学療法室スタッフに対する、抗がん剤治療に関する教育</li> <li>・緩和ケアに関する院内外医療者への教育</li> </ul>		0.10	毎週のカンファレンス、カルテ回診、カンサーボード、新規薬剤に関する勉強会、学生講義等により、抗がん剤治療・支持療法・緩和ケアに関連する教育を年間通して実施することができた。
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部資金の獲得(科研費、民間研究費)</li> <li>・がん診療の向上につながる臨床研究の実施</li> <li>・学会発表</li> </ul>		0.20	今年度は、新たな科研費の申請を実施し(結果発表は未)、少額ながら民間研究費も獲得できた。また、外来化学療法室に関する臨床研究を実施、学会発表も積極的に行うことができた。
社会貢献	0.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん診療に関する市民公開セミナー開催</li> </ul>		0.00	今年度は、予算不足のため実施できなかった。
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来化学療法室の運用体制の維持・向上(外来化学療法室連絡会議)</li> <li>・院内の抗がん剤治療レジメンの適切な管理・運用体制の維持(レジメン登録審査管理委員会)</li> <li>・免疫チェックポイント阻害薬の副作用対応体制の構築(チームirAE)</li> </ul>		0.20	今年度は外来化学療法室連絡会議委員長に就任し、運営体制の維持向上に努めた。また、院内ではレジメン登録審査管理委員として積極的な審査への関わり、カンサーボードの運営、免疫チェックポイント阻害薬に関するチーム(チームI-O)の立ち上げ・運営・院内管理マニュアルの作成等をおこなった。
診療	0.50	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来化学療法室の患者の治療管理・副作用対応</li> </ul>		0.50	昨年末より外来化学療法室の利用件数が急激に増加したが、運用マニュアル改訂、電子カルテ上での事前問診用テンプレートの作成、予約システムの変更等を通じて、外来通院患者が安全に治療継続できる体制整備に努めた。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腫瘍内科・緩和ケア医として、院内のがん診療の維持・向上に努める</li> </ul>		1.00	全領域を通して、当初の年度目標設定に従って業務を遂行することができた。がん薬物療法専門医の資格取得もでき、次年度からは腫瘍内科医として院内におけるがん薬物療法に関連するさらなる体制整備や臨床研究の実施、また都道府県がん診療拠点病院として県内の診療体制の向上にも努めていきたい。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) このシートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	武村 克哉		所 属	医学部附属病院地域医療部	
職 名			講 師		
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学科2年次・3年次地域医療／プライマリ・ケア教育科目の計画・実施</li> <li>・医学科2年次・3年次循環器系症候学Ⅰ・Ⅱ講義の実施</li> <li>・医学科4年次医療面接実習の計画・実施</li> <li>・医学科4-5年次地域医療臨床実習の計画・実施</li> <li>・附属病院総合診療センターでの医学科4-5年次学生に対する外来教育</li> <li>・附属病院研修医に対するオリエンテーション、共通研修カリキュラムの計画・実施</li> <li>・臨床研修指導医に対する講習の計画・実施</li> <li>・地域医療・総合診療に関心のある学生の支援</li> </ul>	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒前地域医療／プライマリ・ケア教育に関する講義(医学科2年次・3年次地域医療／プライマリ・ケア講義8コマ)の計画・実施、・医学科2年次・3年次循環器系症候学Ⅰ・Ⅱ講義の実施、医学科4年次医療面接実習の計画・実施、医学科4-5年次地域医療臨床実習の計画・実施、・附属病院総合診療センターでの医学科4-5年次学生に対する外来教育、・附属病院研修医に対するオリエンテーション、共通研修カリキュラムの計画・実施、臨床研修指導医養成セミナーでの講習を実施した。</li> </ul>	
研究	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療・総合診療に関する研究、学会発表</li> <li>・臨床研修指導医養成の評価に関する研究、学会発表</li> </ul>	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハワイ沖繩医学教育フェローシップの取り組みにつき、第4回国際Faculty development学会(2017年8月)に共同発表者として演題発表した。</li> </ul>	
社会貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県委託事業「健康行動実践モデル事業」ワーキンググループへの参画</li> <li>・沖縄プライマリ・ケア研究会への参画(幹事担当)</li> <li>・全国地域医療教育協議会への参画(代議員担当)</li> </ul>	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県委託事業「健康行動実践モデル事業」ワーキンググループ員を担当した。</li> <li>・沖縄プライマリ・ケア研究会の幹事を担当した。</li> <li>・全国地域医療教育協議会の代議員を担当した。</li> </ul>	
管理運営	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・琉球大学第3期中期計画No.36実施担当者として、地域連携部門の現状を分析する。</li> <li>・在宅医療推進センター副センター長として、在宅医療推進センターの運営調整を行う。</li> <li>・琉球大学医学部附属病院総合臨床研修・教育センター員、初期臨床研修先島プログラム「美ぎ島」責任者として、研修プログラム・地域保健医療研修を調整する。</li> <li>・総合診療センター運営協議会委員として、総合診療センター外来の運営調整を行う。</li> <li>・琉球大学医学部附属病院総合診療専門研修プログラム作成・広報・専攻医募集を行う。</li> <li>・琉球大学医学部医学教育企画室員として、離島地域病院実習等、地域医療関連企画に対する支援を行う。</li> <li>・琉球大学医学部医学科教育連絡主任として、地域医療臨床実習の連絡調整を行う。</li> <li>・共用試験医学系OSCE「医療面接」副責任者として、OSCE・BPEの運営調整を行う。</li> <li>・リスクマネジャー連絡会議委員として、会議への出席、リスク管理を行う。</li> <li>・ハワイ-沖繩医学教育フェローシップ実行委員として、管理運営調整を行う。</li> </ul>	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・琉球大学第3期中期計画No.36実施担当者として、地域連携部門の現状を分析した。在宅医療推進センター副センター長として、在宅医療に関する研修会を企画・開催した。琉球大学医学部附属病院総合臨床研修・教育センター員、初期臨床研修先島プログラム「美ぎ島」責任者、地域医療研修担当者として、定例ミーティングに参加し、「美ぎ島」プログラムの調整、共通研修カリキュラム・地域医療研修の調整を行ない、指導医養成セミナーにてタスクフォースを担当した。総合診療センター運営協議会委員として、総合診療センター外来の運営調整を行った。琉球大学医学部附属病院総合診療専門研修プログラム統括責任者として、総合診療専門研修プログラムを作成し、広報・専攻医募集を行った。琉球大学医学部医学教育企画室員として、「地域医療を学ぶためのPBL」の資料作成・学生チューターオリエンテーション、医学科3年次離島地域病院実習にて久米島病院実習を担当し、久米島実習学生に対する事前・事後学習、症例カンファレンスを行った。琉球大学医学部医学科教育連絡主任、総合診療センター運営協議会委員、リスクマネジャー連絡会議委員として会議に参加した。共用試験医学系OSCE「医療面接」ステーション副責任者を担当し、医療面接模擬患者を育成し、OSCE・BPEの運営調整を行った。ハワイ沖繩医学教育フェローシップ実行委員として、同プログラムの実施調整を行った。</li> </ul>	
診療	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合診療センターにおける外来診療(週5回)</li> <li>・総合診療センターにおける禁煙外来(週2回)</li> <li>・救急部診療応援(月1回)</li> </ul>	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合診療センター外来における外来診療(週5回)、禁煙外来(週2回)を行った。</li> <li>・救急部診療応援(月1回)を継続した。</li> </ul>	
計	1.00		1.00		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		宮城 智央	所 属		医学部付属病院 脳神経外科
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.05	医学科4年生へ担当の講義(救急医療系:意識障害)が予定されている。2週間毎に臨床実習を受ける医学科5年生に担当範囲のレクチャーを継続して行い、また、医師国家試験や臨床実習についても継続して助言や指導を行っていく。1年間を通して臨床実習する医学生5年生と6年生に対して、脳神経外科外来実習について、問診・診察・カルテ記載を指導していく。初期研修医・後期研修医への指導・助言を行っていく。		0.20	医学科4年生へ担当の講義(救急医療系:意識障害)を行った。2週間毎に臨床実習を受ける医学科5年生に担当範囲のレクチャーを継続して行い、また、医師国家試験や臨床実習についても継続して助言や指導を行った。臨床実習する医学生5年生と6年生に対して、脳神経外科外来実習のプレゼンテーション、問診・診察・カルテ記載を指導した。初期研修医・後期研修医への指導・助言を行った。医学科6年生のpostCC OSCE関連業務を行った。医学科4年生のOSCE試験評価者を担当した。
研究	0.10	術前・術中における3Dなどの画像分析やシミュレーションなどの研究を継続し、これまで同様に学会発表を継続していく。また、それらの方法を同僚などが行えるように指導や技術提供していく。		0.20	第76回日本脳神経外科学会学術総会、第27回日本シミュレーション外科学会、第40回日本脳神経CI学会総会、第124回沖縄県医師会医学会総会にて学術発表した。術前シミュレーション3Dや術中ナビゲーション3Dの研究をより深化させた。それらの3Dの方法について同僚などへ技術提供・指導した。手術用3Dシミュレーションについて、これまでの琉球大学後援財団と琉球大学若手研究者支援研究費に続き、科学技術融合振興財団からの研究助成金によって研究課題を発展させた。
社会貢献	0.05	緩和ケア研修会において協力者として支援する。脳神経外科領域における市民公開講座などにて、一般市民への健康や病気に関する啓発を行う。		0.05	緩和ケア研修会において、スタッフとして貢献した。沖縄県立博物館・美術館において、市民公開講座の『頭部外傷』を担当した。ぎのわんシティFMのラジオ番組「メディカルINFO」において『こどもの頭部外傷』を担当した。
管理運営	0.10	感染対策実務者会議などの委員活動をこれまで同様に継続していく。その他、各種会議について代理出席にて補助していく。		0.05	感染対策実務者会議、院外委託検査委員などの委員活動をこれまで同様に継続した。また、医局長会議、救急部運営協議会などへの代理出席にて対応を行った。
診療	0.70	琉球大学医学部付属病院において、日々の入院、手術、外来、当直、救急の業務を、医療過誤なく、安全で確実に継続して行っていく。地域の医療に外来などにて貢献していく。		0.50	琉球大学医学部付属病院において、日々の入院、手術、外来、当直、救急の業務を適確、安全に行い、医療過誤や訴訟なく、医療業務をなした。大浜第一病院の脳神経外科の外来業務にて地域の医療へ貢献した。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山本 雄一	所 属		医学部付属病院	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.25	医学科学生の臨床系統講義、医学科臨床実習生の指導・教育を行う。 看護師の指導・教育を行う。 研修医、医員の教育を行い、学会発表の指導を行う。		0.25	学部学生の講義を行った。臨床研究学生に対して臨床を指導した。 組織検討会を行い、皮膚病理学を指導し、学会への発表の指導を行った。			
研究	0.25	日本皮膚科学会総会への参加、学術論文雑誌への論文投稿		0.25	沖縄県皮膚科勉強会、地方会へ参加した。依頼原稿を執筆した。			
社会 貢献	0.15	沖縄県他施設での外来診療・手術。離島での診療・手術。 市民公開講座の開催、運営、講師として皮膚疾患の知識の啓蒙を行う。		0.15	沖縄県他施設での外来診療、手術を行った。			
管理 運営	0.10	保険診療委員会、DPC委員会、救急部運営委員会での委員を務め、管理運営を行う。		0.10	がん部会、救急部運営協議会委員、保険診療委員、医療材料検討委員等、DPC委員の委員会へ出席した。			
診療	0.25	皮膚科外来、入院患者の診療を行う。 手術後の管理を行う。		0.25	大学病院での外来・入院・手術診療を行った。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)								
名 前		山口さやか	所 属		附属病院皮膚科	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.25	皮膚科修練医の学会発表、論文作成の指導、学部学生のポリクリにおける真菌実習指導、皮膚科講義を行っている。		0.30	学部学生の講義を行った。M3基礎配属の学生の指導を行った。医員の論文作成を補助した。ポリクリ学生に真菌症についてのレクチャー、顕微鏡を用いて実習を行った。			
研究	0.35	遺伝性皮膚角化症ダリエー病への創薬、遺伝性弾性線維腫の原因遺伝子の解明、栄養障害性皮膚症モデルマウスを用いた解析、をテーマに研究を行う。これらは既に科研費を獲得した研究課題である。		0.20	アステラス製薬との共同研究を行っている。アース製薬と共同研究で、アタマジラミ症に対する新規薬剤の安全性、有効性について臨床試験を行った。大学院生とともに、栄養障害性皮膚症モデルマウスを作成し、解析を開始した。			
社会 貢献	0.20	沖縄本島北部地区において皮膚科健診を毎年行っている。沖縄県で特に蔓延しているアタマジラミ症について、実態把握のための県全体のアンケート調査を行っている。アタマジラミ症新規薬剤について有効性と安全性評価の治験を行う。		0.30	アース製薬との新薬の臨床試験を全数、完了できた。沖縄に流行する耐性アタマジラミへの新規薬剤導入へ向けて、保健学科と共同で、沖縄県内の県立幼稚園、小学校へのアンケート調査を実施し、実態把握を行った。古宇利島、宮古島での皮膚がん検診を皮膚科医局として開始、継続した。			
管理 運営	0.05	学内の委員会に参加する		0.05	沖縄県皮膚科地方会、沖縄県皮膚科勉強会の運営を行った。			
診療	0.15	外来診療・病棟診療を行う		0.15	外来診療・病棟診療での実際の診療を通常通り行った。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		



(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		林健太郎	所 属		医学部附属病院皮膚科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.15	医学部学生への臨床講義、病院実習。OSCEなどの学生試験。研修医への指導。日本皮膚科学会専門医指導医として、後期研修医への指導。		0.15	目標通り、行うことができた。			
研究	0.15	科研費を取得し(強皮症;申請中)、その研究。所属する日本皮膚科学会、日本皮膚外科学会、日本アレルギー学会、日本形成外科学会、日本皮膚悪性腫瘍学会等での学会発表。		0.15	目標通り、行うことができた。			
社会貢献	0.10	離島医療支援:、公立久米島病院(毎週)、与那国診療所(数ヶ月に一度)での診療。沖縄本島内での地域医療の診療支援。		0.10	目標通り、行うことができた。在宅褥瘡学会、久米島での褥瘡勉強会において講師として講演会を行った。			
管理運営	0.10	がん登録委員会、レジメン登録委員会、クリニカルパス委員会、放射線診療委員会への参加および診療への反映。センター試験など大学入試試験。		0.10	目標通り、行うことができた。看護師特定行為研修指導者講習会に参加し、修了した。看護師特定行為の実施施設の開催のワーキンググループに参加している。			
診療	0.50	医学部附属病院における手術、外来診療、病棟業務等の日常診療。		0.50	目標通り、行うことができた。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		安村 涼	所 属		医学部皮膚科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.20	医学部のポリクリ・クリニカルクラークシップの学生の教育を行う。		0.20	主にポリクリ学生を対象に、講義、実習などを行った。			
研究	0.10	大学の教員として、時間のある限り、研究・学会発表の施行・支援を行う。		0.20	皮膚科地方会に症例の発表と、皮膚科雑誌(小児皮膚科学会雑誌)に論文の提出をおこなった。			
社会 貢献	0.10	離島医療などを含めて地域医療に貢献する。		0.10	沖縄県中部の地域にて診療行為を行った。			
管理 運営	0.10	各種委員会の科の代表として管理運営を行う。		0.10	輸血療法委員会、クリニカルパス実施推進委員会、感染対策実務者会議、緩和ケアセンター連絡会議、放射線部運営協議会など各種会議に出席した。			
診療	0.50	皮膚科外来、入院患者の診療を行う。		0.40	皮膚科外来、入院患者の診療を行った。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		青山 肇	所 属		医学部附属病院病理診断科	職 名		特命助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.25	1.臨床実習における学生の指導を行う。その際、個々の症例の捉え方を的確かつ丁寧に指導できるように知識の充実を図る。 2.病理診断科に研修に来る初期研修医の指導を行う。その際に組織の顕微鏡的観察だけではなく、肉眼診断の重要性、臨床情報の理解が重要であることを認識させる。 3.医学生および初期研修医に対して、進路決定の参考となるよう病理学・病理診断の実際についての情報を提供する。		0.25	1. 病理診断科のポリクリ学生に対して、主として生検組織診断症例の指導を行った。またM2/3学生に対して、病理学各論の講義・実習・試験を行った。 2. 病理診断科の初期研修医に対して指導を行った。 3. 平成29年度よりはじまる新専門研修プログラムの策定や公開に携わった。			
研究	0.25	1.外科病理組織を用いた病理学的な研究を確立し、学会発表や論文作成を目指す。 2.後期研修医や初期研修医の学会報告の指導を行う。 3.科学研究費補助金の獲得を目指す。		0.25	1. 共著者として症例報告や学会発表に携わった。 2. 後期研修医の日本病理学会での発表を指導した。 3. AMED研究班班員として研究を行った。			
社会 貢献	0.15	離島を含む県内各病院の病理診断・病理解剖に従事する。		0.15	県立宮古病院・八重山病院を含む県内各病院にて、病理診断・病理解剖ならびにカンファレンスを行った。			
管理 運営	0.10	病理診断科の業務が円滑に進むよう、様々な管理業務やミーティングを行う。		0.10	病理診断科医局長として、業務が円滑に進むよう様々な管理業務やミーティングを行った。			
診療	0.25	1.大学病院における病理診断業務を行う。 2.臨床各科とのカンファレンスに積極的に参加する。		0.25	1. 大学病院にて病理診断業務を行った。 2. 消化器カンファ・がんサーボードなどの院内カンファレンスに参加した。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		玉城 智子	所 属	医学部 医学科	職 名	特命助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	ポリクリの病理では外科病理の実際業務を理解させ、教室の授業では実感できなかった病理診断を実際に学生にもみさせる。病理解剖においては、死因の追求のみならず、研修医への教育も個々の症例に準じて行う。		0.30	ポリクリの病理では外科病理の実際業務を理解させ、教室の授業では実感できなかった病理診断を実際に学生にもみさせることができた。病理解剖においては、死因の追求のみならず、研修医への教育も個々の症例に準じて行った。	
研究	0.30	日本病理学会での外科病理症例の発表を予定。外科病理症例で、問題症例や希症例については消化器外科／内科との合同カンファレンスを行い検討し、稀症例については研究会や学会での発表を行う。		0.30	日本臨床細胞学会九州連合会学会で細胞診症例の発表を行った。外科病理症例で、問題症例や希症例については腎泌尿器外科との合同カンファレンスを行い検討した。	
社会 貢献	0.10	県内各病院の病理診断・病理解剖に従事する。		0.10	県内各病院の病理診断・病理解剖に従事した。	
管理 運営	0.10	講座内および病理部における大学院生・研修医に対する管理・ミーティングを行う。委員会に所属し、CBTや医師国家試験問題作成などを行う。		0.10	講座内および病理部における大学院生・研修医に対する管理・ミーティングを行った。	
診療	0.20	病院病理部での診断。琉大キャンサーボードや他科とのカンファレンスや学外での勉強会へも参加、診断困難症例に対し、他科と連携して診断を行っていく。		0.20	病院病理部での診断。琉大キャンサーボードや他科とのカンファレンスや学外での勉強会へも参加、診断困難症例に対し、他科と連携して診断を行った。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		伊良波 裕子	所 属		附属病院 放射線科	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.10	講義やポリクリ実習にて適切な指導を行う		0.10	講義、ポリクリ実習で学生に適切な指導を行った。			
研究	0.20	婦人科疾患や胎盤ポリープの画像所見やIVR治療についての研究 上記研究テーマの学会発表や学術誌への投稿		0.20	胎盤ポリープの総説を学会誌に投稿し、受理・掲載された。			
社会 貢献	0.05	女性医師支援や同窓会役員の担当		0.05	県医師会女性医師部会の事業である女性医師支援の講演会で講師を務めた。			
管理 運営	0.05	OSCE副責任者担当		0.05	OSCE副責任者としてBPE実習参加や試験当日の担当者の割り振り等を行った。			
診療	0.60	日常診療業務(読影、血管造影、外来など)		0.60	読影業務やIVRなどの日常診療業務を十分に行った。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	有賀 拓郎		所 属	附属病院 放射線科		職 名	助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>放射線治療の重要性の教育</li> <li>放射線治療の適応の教育</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>M3の研究実習の際に、放射線治療を選択する学生が増えているため、重要性を教育するにあたり、一定の効果があると考えられる。</li> </ul>			
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>科研費取得の子宮頸癌に関する研究の推進</li> <li>進行食道癌の根治的放射線治療成績の論文化。</li> <li>小線源治療併用前立腺癌全骨盤照射の臨床試験化</li> <li>JCOG1408肺定位照射に関する多施設共同研究への症例登録</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>科研費獲得の研究は進んでおり、予算消化も予定通りである。</li> <li>食道の論文に関しては年度末で投稿可能な見込み</li> <li>JCOG1408に関しては、症例登録を行った。</li> </ul>			
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>他病院/他診療科への放射線治療の具体案の提示。特に離島/北部医療圏への適応の拡大</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民公開講座/関連病院広報を年度内に複数回実施した。</li> </ul>			
管理 運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>高精度放射線治療の標準化</li> <li>高精度放射線治療の開始の迅速化</li> <li>放射線治療専門医の育成</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度と比較して3-4日短い日程にて放射線治療医が開始できるようになった。</li> <li>標準化のツールを作成し、後期研修医でもある程度の放射線治療計画が立案可能にした。</li> </ul>			
臨床	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>高精度放射線治療の適応増加</li> <li>小線源治療の標準化</li> <li>緩和照射の適応増加</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>高精度放射線治療の適応は増加している。</li> <li>小線源治療に関しても、術者間で手技の近点化を図った。</li> <li>積極的な緩和照射を施行しており、前年度より適応症例が増加した。</li> </ul>			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		平安名 常一	所 属		医学部附属病院 放射線部	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	①放射線治療、及び、IVRの適応疾患を理解させる。②放射線治療、及び、IVRの基礎・応用を指導する。③学生が放射線治療、IVRに参加希望をする場合には可能な限り参加型教育として支援する			0.25	①、②、③のいずれも達成できた。		
研究	0.30	①頭頸部を含めた悪性腫瘍に対する動注化学放射線療法症例を蓄積し、短期・中期成績を報告する。②治療後の再発症例に対する緩和的治の症例を蓄積し、その有効性・安全性の短期・中期成績を報告する。			0.30	①、②のいずれも達成できた。		
社会 貢献	0.05	放射線治療、及び、IVRによる根治治療のみだけでなく、それらを用いた緩和治療の情報を講演などにて伝えていく。			0.05	達成できた。		
管理 運営	0.10	放射線部の運営のみだけでなく、FIMACにおけるPET運営にも協力して確実な軌道にのせる事を目指す。			0.10	達成できた。		
	0.30	外来診療を円滑に行い、放射線部での収益をより高める方向で検討していく。			0.30	達成できた。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	與儀 彰	所 属	所属病院 放射線部	職 名	助教
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.20	卒前教育:ポリクリ、クリクラ時の学生の教育、M3医科学研究時の学生指導、M2～4に対する放射線医学の講義。 卒後教育:研修医の指導、教育、毎週の神経放射線レクチャー、学会報告・研究の指導、逐次の専門修練医の教育。 その他:進路指導の相談		0.25	卒前教育として、ポリクリ、クリクラ時の学生の教育、M3医科学研究時の学生指導、M2～4に対する放射線医学の講義を担当した。 卒後教育としては、研修医の指導、教育、毎週の神経放射線レクチャー、学会報告・研究の指導、逐次の専門修練医の教育を行った。また医局長として、学生に対しては進路や放射線科に対する質問にに対し、研修医の指導、ローテートの調整などを行った。
研究	0.30	中枢神経疾患を中心に、各種画像診断の研究を進める。H29年度日本学術振興会科研費を取得した研究(小脳歯状回におけるガドリニウム沈着が高次脳機能に及ぼす影響に関する検討)を行う。また脳腫瘍の硬度予測、advanced imagingを持ちいた認知症疾患の検討も並行して進める。神経領域以外には、IVRの症例を中心とした研究の支援も行う。		0.20	ASNR2018にて、MRIによる髄膜腫の硬度予測の検討結果を報告した。H29年度日本学術振興会科研費を取得した研究(小脳歯状回におけるガドリニウム沈着が高次脳機能に及ぼす影響に関する検討)では画像検討を進めている。今後は機能的脳MRIを撮影する患者を選定する予定。また第3内科主導の疫学調査においても、頭部MR画像の解析を行う分担研究者として、撮影を開始している。
社会 貢献	0.05	国内外での学会発表を行い、研究で得られた知見を発信する。また県医師会誌への依頼投稿も積極的に引き受ける。		0.15	ASNR2018、日本医学放射線学会九州地方会、神経放射線ワークショップ、九州神経放射線研究会に精力的に発表した。また第46回断層映像研究会を主催し、事務局長を務めた。AIMS2018、九州MRI研究会など、併せて6つの研究会で招待講演を行った。その他、依頼を受けて沖縄県医師会雑誌に2編、「画像診断」誌に1編の総説を寄稿し、また教科書(「救急における頭部画像診断」)、ガイドライン(「画像診断ガイドライン」)の執筆も担当した。
管理 運営	0.10	3台目MRI装置導入に際し、選考委員として職務を全うする。今年10月に主催するH29年断層映像研究会の委員としての職務を全うする。来年10月に主催する秋季臨床大会の支援を行う。さらにH31年神経放射線ワークショップの事務局長として準備を進める。		0.10	H29年8月より医局長に就任し、医局の管理・運営を行っている。3台目MR装置導入の仕様策定委員として、現在も検討・調整を行っている。上記のように第46回断層映像研究会の事務局長を全うし、来年10月に主催する秋季臨床大会も委員として支援を行っている。またH31年神経放射線ワークショップの事務局長として準備を進めている。
診療	0.35	各種画像診断の読影を行う。脳神経外科、神経内科、精神科とのカンファランスを行う。基幹型認知症機能センターの放射線科代表として、認知症疾患の診療に貢献する。3台目MRI装置導入の際は他科と連携し、撮像方法の設定に取り組む		0.30	画像診断医として各種画像検査の読影を行った。中枢神経領域における診断難症例の読影を担当した。神経内科、脳神経外科とは症例検討会を毎週行い、また精神科も含めた神経カンファランスに毎月参加した。また基幹型認知症機能センターの放射線科代表として、認知症患者に対する先進的な撮影、読影、解析を行っている。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	



(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		和泉 俊輔	所 属	医学部 医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	医学部での系統講義ならびにM5、M6への病院臨床実習における指導を行う。医学教育コアカリキュラムの改訂に対応した研修プログラムを作成していく。初期研修医に対しては、初期臨床研修必須項目を実施できるように指導する。		0.30	医学部での系統講義ならびにM5、M6への病院臨床実習における指導を行った。医学教育コアカリキュラムの改訂にあわせシラバスを改訂した。初期研修医に対しては、初期臨床研修必須項目を実施できるように指導する。	
研究	0.20	科研費(若手B)を獲得した。培養肺細胞などを用いた研究を推進し、論文の執筆を行う。また、手術室において脊髄虚血に関連した臨床研究を行う。		0.20	科研費(若手B)を獲得した。培養肺細胞などを用いた研究を推進し、論文の執筆を行った。また、手術室において脊髄虚血に関連した臨床研究を継続している。	
社会 貢献	0.10	地域の関連施設に週1回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行う。		0.10	地域の関連施設に週1回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行った。	
管理 運営	0.10	手術室の効率的運営を行えるように、看護師、医師と協力し、手術室稼働の調整を行い、安全かつ迅速に運営を行う。医学部において医学教育企画室の委員として尽力する。		0.10	手術室の効率的運営を行えるように、看護師、医師と協力し、手術室稼働の調整を行い、安全かつ迅速に運営を行った。医学部において医学教育企画室の委員として尽力した。	
診療	0.30	附属病院手術室において、麻酔業務に専従し、手術数増加のために貢献する。手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供する。新規手術の安定に向けた麻酔管理を準備していく。		0.30	附属病院手術室において、麻酔業務に専従し、手術数増加のために貢献した。手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供した。新規手術の安定に向けた麻酔管理を行っている。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		久保田 陽秋	所 属		附属病院 麻酔科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.30	医学部での系統講義ならびにM5、M6への病院臨床実習における指導について、コアカリキュラムの改正に対応したプログラムを基に行っていく。初期研修医に対しては、初期臨床研修必須項目を実施できるように指導する。		0.30	医学部5・6年生の病院臨床実習における指導を行い、また、初期研修医に対しては初期臨床研修必須項目を中心とした指導を行なった。			
研究	0.20	一酸化窒素合成酵素系完全欠損による、脳梗塞巣の縮小現象がマウス実験において認められた。この機序解析によって得られた結果をまとめ、論文投稿・発表していく。		0.20	一酸化窒素合成酵素系完全欠損による、脳梗塞巣の縮小現象がマウス実験において認められ、この機序解析によって得られた結果をまとめ、論文を執筆中である。			
社会 貢献	0.10	地域の関連施設に週1回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行う。		0.10	週1回、地域の関連施設に定期的に出向し、安全な麻酔医療の提供を行った。また関連施設の医師・看護師に対し技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行なった。			
管理 運営	0.10	手術室の効率的運営を行えるように、看護師、医師と協力し、手術室稼働の調整を行い、安全かつ迅速に運営を行う。		0.10	手術室の効率的運営を行えるように、看護師、医師と協力し、手術室稼働の調整を行い、安全かつ迅速に運営を行った。			
診療	0.30	附属病院手術室において、麻酔業務に専従し、手術数増加のために貢献する。手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供する。新規手術の安全な実施に向けて麻酔管理を準備していく。		0.30	附属病院手術室において、麻酔業務に専従し、手術数増加のために努力した。また、手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供できるように、準備し、術後はカンファレンスに参加し改善点につき討論した。新規手術の安全な実施に向けて麻酔管理を計画・実施した。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	安部 真教		所 属	医学部附属病院 麻酔科		職 名	助教		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.20	医学部学生・研修医に対し、積極的に実習に参加できるよう、安全に注意を払い丁寧に指導教育を行う。研修医に対し実際の麻酔管理、ペインクリニック外来の実習監督を行い、指導教育する。		0.20	医学部学生、研修医に対し、講義、臨床実習を通して全身管理、麻酔管理、ペインクリニックの教育、指導を行った。超音波や透視室を利用した神経ブロックを指導し、安全に実施することができた				
研究	0.10	麻酔、ペインクリニック、緩和ケア関連の臨床研究、症例検討を行い、学会等で発表を行う。症例報告、原著論文を作成する		0.10	ペインクリニック、緩和ケアの臨床研究、症例検討を行い、共同演者として学会発表のサポートを行った。他院での集団認知行動療法プログラムに参加し、慢性疼痛における認知行動療法の効果を研究し、当院で施行する準備を進めている				
社会貢献	0.10	地域関連施設に週一回出向し、関連施設の医師および看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援および技術の還元を行う。		0.10	地域の関連施設に週一回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行った。緩和ケア研修会でペインクリニック、緩和ケアに関する講義を行った。看護学校での講義を行った。				
管理運営	0.10	手術室の効率的運営を行えるように、看護師、医師と協力し、手術室稼働の調整を行い、安全かつ迅速に運営を行う。外来業務に携わるスタッフと協力し、安全かつ効率的に外来業務を行う。		0.10	手術室看護師、外科系医師と協力し、安全・迅速に手術室運営を行った。外来看護師、スタッフとも協力して運営を行い、大きな問題は生じなかった。				
診療	0.50	附属病院手術室において、麻酔業務に専従し、手術数増加の為に貢献する。また、手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供する。ペインクリニック外来で疼痛患者の治療を行い、院内緩和ケアチームで活動運営を行う。		0.50	附属病院手術室において、手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療の提供に努めた。ペインクリニック外来において痛みの治療を行い、多くの患者でQOLの改善がみられた。院内緩和ケアチームの活動を行い、癌に伴う苦痛の軽減を行った。				
計	1.00			1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		大久保 潤一	所 属		医学部 医学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.10	医学部学生の講義に際して、学生が積極的に参加できるように講義の工夫を行う。また、研修医、ローテーターに対し、実際の麻酔管理、ペインクリニック診療の教育を行い指導する。教官として学生、研修医の進路指導に関わる。		0.20	医学部学生、研修医に対し、講義、臨床実習を通して全身管理、麻酔管理、ペインクリニックの教育、指導を行った。神経ブロックの説明に骨の模型を用いるなどの工夫を行った。			
研究	0.20	麻酔、ペインクリニック、緩和ケア関連の臨床研究、症例検討を行い、学会等で発表を行う。症例報告、原著論文を作成する。		0.10	ペインクリニック、緩和ケアの症例検討を行い、ペインクリニックに関して学会発表を行った。			
社会貢献	0.10	地域の関連施設に週一回出向し、ペインクリニック領域の治療を行う。また関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元する。		0.10	地域の関連施設に週一回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行った。緩和ケア研修会でペインクリニック、緩和ケアに関する講義を行った。			
管理運営	0.10	スタッフとして医局、手術室、ICU運営に協力する。		0.10	手術室看護師、外科系医師と協力し、安全・迅速に手術室運営を行った。外来看護師、スタッフとも協力して運営を行い、大きな問題は生じなかった。			
診療	0.50	附属病院手術室において、麻酔業務に専従し、手術数増加のために貢献する。手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供する。ペインクリニック外来にて患者を診療し治療する。		0.50	附属病院手術室において、手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療の提供に努めた。ペインクリニック外来において疼みの治療を行い、QOLの改善が多くの患者にみられた。院内緩和ケアチームの活動を行い、癌治療に伴う苦痛の軽減を行った。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		宜野座 到	所 属		医学研究科麻酔科学講座
			職 名		助教
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.20	医学部での4年生において系統講義を行う。5・6年生における病院臨床実習における指導ならびに初期研修医に対しては初期臨床研修必須項目を中心とした指導を行う。麻酔専攻医に対しては講義や手技を通して麻酔科医として必要な知識と技術を指導する。		0.20	医学部での4年生において系統講義を行った。5・6年生における病院臨床実習における指導ならびに初期研修医に対しては初期臨床研修必須項目を中心とした指導を行なった。麻酔専攻医に対しては講義や手技を通して麻酔科医として必要な知識と技術を指導した。
研究	0.10	手術室における症例報告などの論文執筆を行う。		0.10	症例報告の論文執筆中である。また心臓血管麻酔専門医を取得した。
社会 貢献	0.10	地域の関連施設に定期的に出向し、関連施設の医師・看護師に対し技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行う。		0.10	週一回、地域の関連施設に定期的に出向し、安全な麻酔医療の提供を行った。また関連施設の医師・看護師に対し技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行なった。
管理 運営	0.20	医師・看護師・臨床工学技士と協力して、安全・迅速かつ効率的な手術室運営を行う。さらにロボット手術・手術室増設委員として高度な麻酔管理のみならず、さらなる11室増設後の手術室の安全性の向上及び効率化の向上に取り組む。		0.20	11室増設後の手術室の安全性の向上及び効率化の向上に取り組み、今年度の麻酔科症例管理は前年度と比較し200件増加したが目標通り、他職種と協力し、安全・迅速かつ効率的な手術室運営を行なった。さらにロボット手術は本年度19例行い安全な麻酔と当院での基本的な麻酔管理を確立した。
診療	0.40	附属病院手術室において麻酔業務に専従し、患者さんにとって高度で安全な医療を提供できるよう心掛ける。また新規手術に対しても高度で安全な麻酔管理を提供できるよう準備していく。		0.40	患者さんにとって高度で安全な医療を提供できた。また新規手術に対しても高度で安全な麻酔管理を提供できた。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		中村 克徳	所 属		医学部 医学科 薬物治療学(薬剤部)	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	医学科2年生10名の指導教官として学生を学習相談などによりサポートする。留学生の受け入れについて積極的に募集および支援活動を行う。ポリクリなどの改善を図る。			0.20	医学科2年生10名の指導教官として学生を学習相談などによりサポートした。留学生の受け入れについて積極的に募集および支援活動を行った。ポリクリの改善として吸入や自己注射などのデバイスを実際に使う体験を取り入れた。		
研究	0.20	科研費および奨学寄附金(外部資金)獲得に向け積極的に応募する。学会で報告発表、学会誌への投稿を行う。学内・学外での共同研究を推進し研究の質・量の向上を図る。			0.20	科研費および奨学寄附金(外部資金)獲得に向け積極的に応募した。学会で報告発表を行った。学内・学外での共同研究を推進し研究の質・量が向上した。		
社会 貢献	0.20	研修会や勉強会を積極的に開催しする。薬剤師等の医療関係者に対してスキルアップセミナーや生涯学習を開催して積極的に貢献する。			0.20	研修会や勉強会を積極的に開催した。薬剤師等の医療関係者に対してスキルアップセミナーや生涯学習を開催して積極的に貢献した。吸入連携や高血圧などに関する新規の薬剤師研修会についても企画中である。		
管理 運営	0.20	「委員会委員」の活動を行う。院内の各種委員会(教授会、病院運営委員会、医療安全委員会、患者サービス委員会、治験審査委員会、臨床研究倫理審査委員会、がんセンター運営委員会など)の活動を行う。			0.20	「委員会委員」の活動を行った。院内の各種委員会(教授会、病院運営委員会、医療安全委員会、患者サービス委員会、治験審査委員会、臨床研究倫理審査委員会、薬事委員会、がんセンター運営委員会など)の活動を行った。		
診療	0.20	薬剤部業務の効率化と活性化を図る。			0.20	薬剤部業務の効率化と活性化を進めた。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			